

上境作ノ内遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

平成25年3月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第366集

か み ざ かい さ く の うち
上境作ノ内遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

平成 25 年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、つくば市を日本における科学技術の研究開発の中核として、さらに国際交流の拠点としてふさわしい街にすべく整備を進めております。

この新しい街づくりの一環として、つくば市と独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部は、市と首都圏を直結する「つくばエクスプレス」の沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である上境作ノ内遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が独立行政法人都市再生機構茨城地域支社（現 独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部）から開発区域内における埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成21年9月から12月までの4か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、上境作ノ内遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成25年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木 欣一

例 言

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社（現 独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部）の委託により、財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）が平成21年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市上境字作ノ内201番地の1ほかに所在する^{かみぎいさくのうち}上境字ノ内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調査 平成21年9月1日～12月31日
整理 平成24年4月1日～5月31日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 白田正子
主任調査員 小林和彦
主任調査員 小野政美 平成21年9月1日～9月30日
主任調査員 中島 理 平成21年9月1日～9月30日
調査員 前島直人
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、次席調査員小川貴行が担当した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 12,640 \text{ m}$ 、 $Y = + 26,080 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3… とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3, …0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」、「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 P - ピット PG - ピット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SK - 土坑
SN - 粘土採掘坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 粘土を多く含む覆土の範囲  繊維土器断面
●土器 □石器・石製品 △金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 現存値は（ ）を、推定値は [] を付して示した。計測値の単位は m, cm, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 遺構の長軸（径）方向は、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

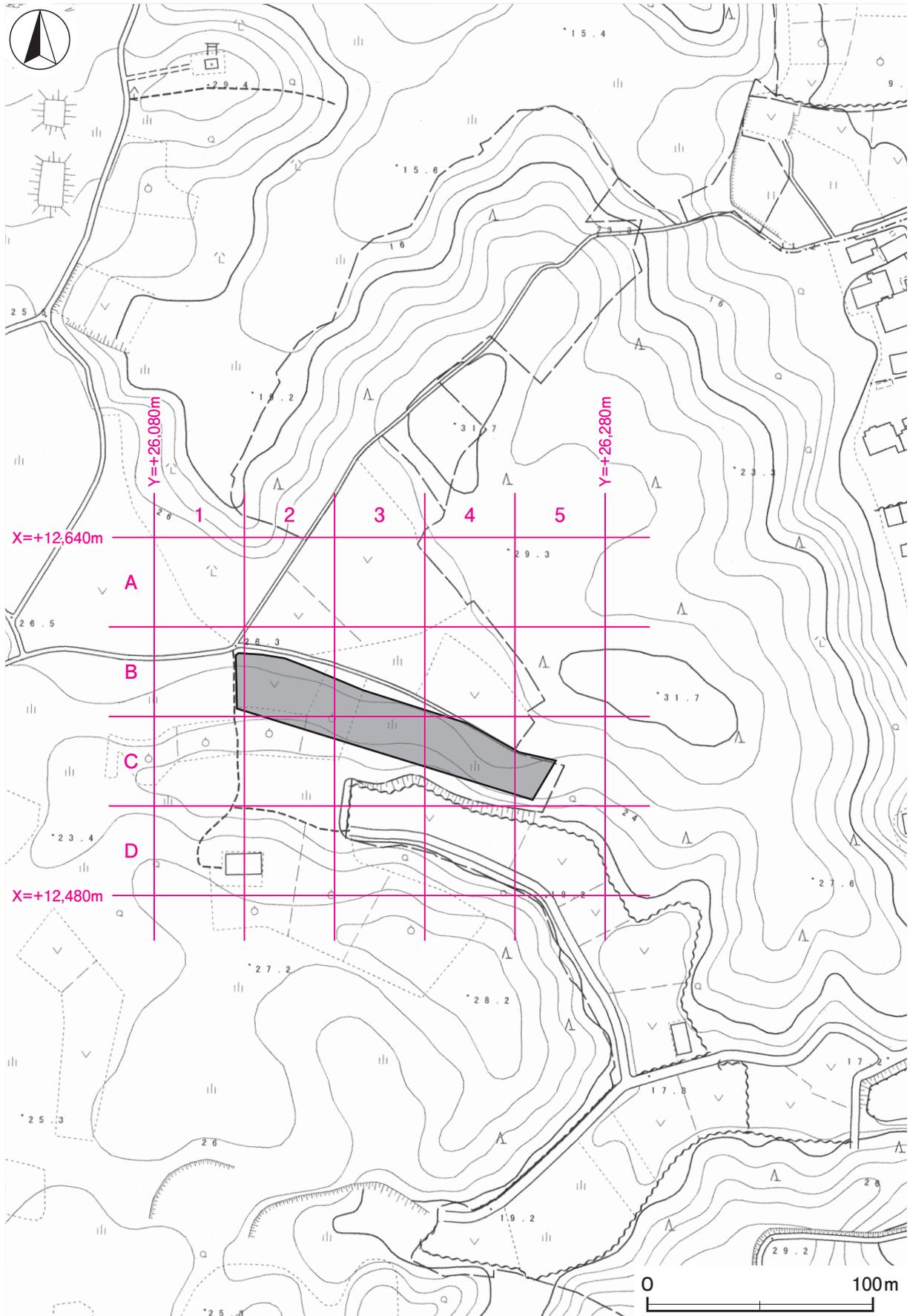
7 今回の報告書で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にした遺構名は以下のとおりである。

変更 SD 5 → SK29, SD 6 → SK30, SD 7 → SK31, SK17 → SN 1

欠番 SD 5 ~ 7, SK 7 · 17

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
遺物包含層	13
2 平安時代の遺構と遺物	21
土坑	21
3 江戸時代の遺構と遺物	22
溝跡	22
4 その他の遺構と遺物	25
(1) 掘立柱建物跡	25
(2) 粘土採掘坑	27
(3) 土坑	27
(4) 溝跡	32
(5) ピット群	34
(6) 遺構外出土遺物	37
第4節 まとめ	39
写真図版	PL 1～PL 4
抄 録	



第1図 上境作ノ内遺跡調査区設定図（「つくば市都市計画図2,500分の1」から作成）

かみざかいさくのうち 上境作ノ内遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

上境作ノ内遺跡は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高 23 ～ 26 m、扇状に広がる台地の基部に立地しています。中根・金田台特定土地区画整理事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 21 年度に約 3,563㎡について発掘調査を行いました。



調査の内容

調査区は、遺跡の南端にあたる台地縁辺部に位置しています。調査の結果、縄文時代前期（約 5,500 年前）に形成された遺物包含層、平安時代の土坑、江戸時代の溝跡、時期不明の掘立柱建物跡や粘土採掘坑などが確認できました。主な出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、土製品（土器片錘・円筒埴輪）、石器（ナイフ形石器・鍬・石皿・磨石・敲石・砥石）、石製品（双孔円板）、鉄製品（鍬）です。



調査区全景（南上空から 左奥は上野古屋敷遺跡）



やっ
谷津に面した調査区



第1号遺物包含層遺物出土状況



遺物包含層から出土した鉄鏃



調査中の粘土採掘坑

調査の結果

調査区が位置する台地縁辺部は、桜川低地から延びる谷津に面しています。台地縁辺部の緩斜面は、かつて小規模な谷が複数存在し、起伏に富んだ地形であったことが、土層の観察からわかりました。谷部には、調査区の北側に位置する台地部から土砂とともに土器が流れ込み、遺物包含層が形成されました。出土している土器は、縄文時代前期のものが多く、当該期の集落が台地上に存在していたと想定されます。また、包含層の上層からは、土師質土器や鉄鏃も出土しており、谷部が完全に埋まるまでには、時間幅があったことがわかりました。

集落の時期は、遺物包含層から出土している遺物や確認された平安時代の土坑、江戸時代の溝跡などの遺構から、縄文時代前期以降、複数の時期にわたるものと考えられます。隣接する上野古屋敷遺跡でも縄文時代前期から中世に至るまでの集落跡が断続的に確認されており、当該地の集落は移動や廃絶を繰り返しながら展開していた様子がうかがえます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市では、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりを進められている。その一環として取り組んでいるのが、2005年8月に開業した「つくばエクスプレス」に伴う沿線の開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に、平成23年7月から独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は茨城県教育委員会教育長に対して、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成7年度に現地踏査を、平成11年8月2日、9月30日、10月1日、11月30日、12月1日に試掘調査を実施し、上境作ノ内遺跡の所在を確認した。平成11年12月10日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に上境作ノ内遺跡が所在すること及びその取り扱いについて、別途協議が必要であることを回答した。

平成13年11月5日、都市基盤整備公団茨城地域支社長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成13年11月6日、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年2月19日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成21年3月11日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、上境作ノ内遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として財団法人茨城県教育財団（平成24年4月から公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成21年9月1日から12月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

上境作ノ内遺跡の調査は、平成21年9月1日から12月31日までの4か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程		期間			
		9 月	10 月	11 月	12 月
調査	準備	9月1日～9月10日			
遺構	調査	9月11日～12月10日			
遺物	洗浄	9月11日～12月10日			
補撤	調査				12月11日～12月31日

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

上境作ノ内遺跡は、茨城県つくば市上境字作ノ内 201 番地の 1 ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、東方約 5 km には霞ヶ浦、北端には筑波山がある。つくば市域の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた標高 25 ～ 26 m のほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、蓮沼川、東谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁辺部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。桜川によって大きく開析された流域には、標高約 5 m の沖積低地が形成され、台地との標高差は約 20 m である。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらに関東ローム層、腐植土層が連続して堆積している¹⁾。

当遺跡は、つくば市の東部、桜川右岸の標高 23 ～ 26 m の台地上に立地している。北西側及び南側に桜川の低地から延びる支谷が入り込み、台地は扇状に北東側へ広がっており、その基部に位置している。低位面との比高は約 10 m である。台地の基部から先端部にかけて、上境作ノ内古墳群が所在し、遺跡の範囲は当遺跡と一部重複する。また、支谷を挟んだ約 300 m 北西の台地上には、上野古屋敷遺跡が所在している。

当遺跡とその周辺の土地利用の現状は、台地縁辺部の一部が雑木林・杉林のほか、台地上は主に畑地として利用されている。また、遺跡の位置する台地を挟むように入り込む支谷は水田または休耕地であり、桜川流域の低地は水田として利用されている。

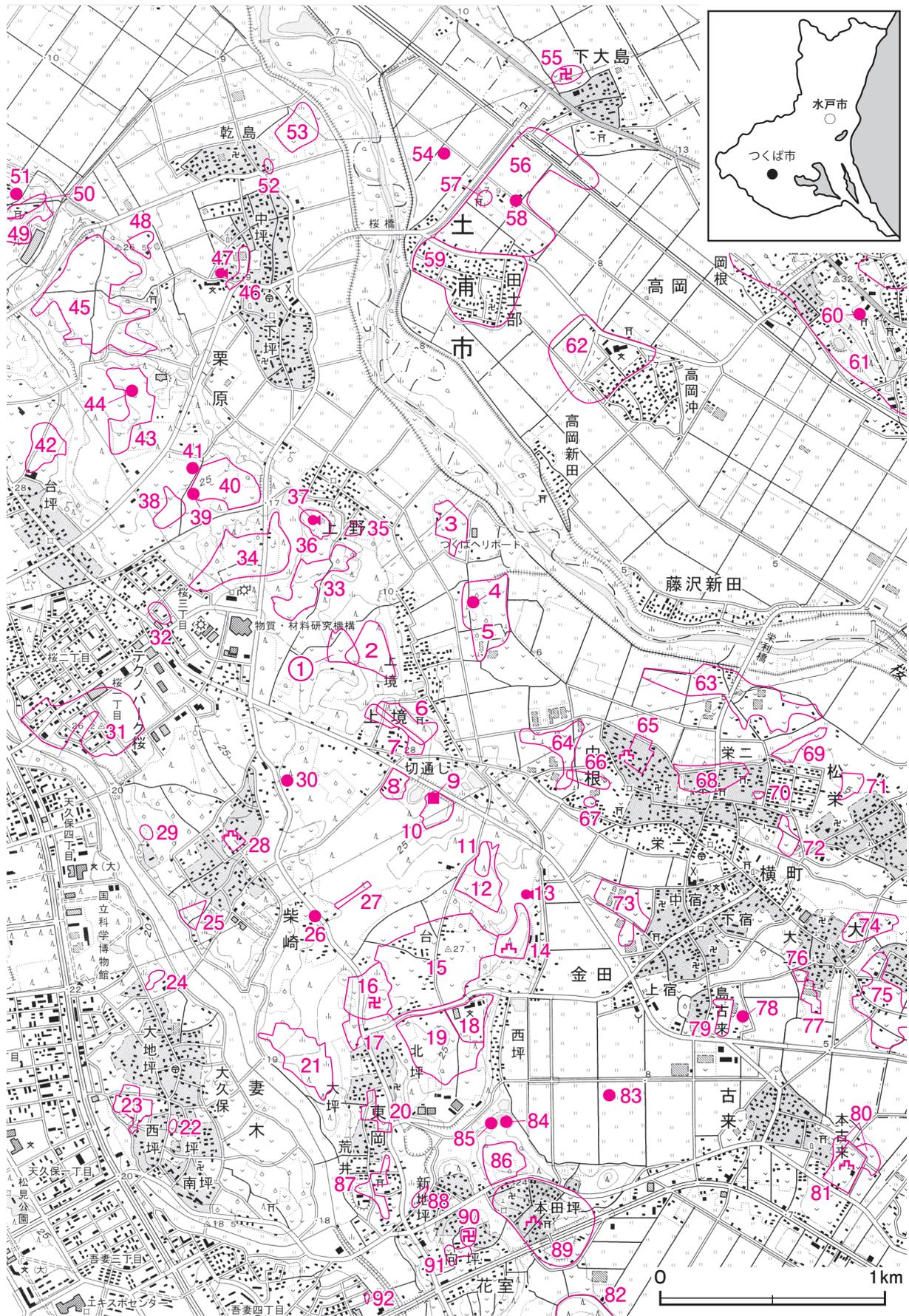
第2節 歴史的環境

上境作ノ内遺跡は縄文時代、平安時代及び江戸時代にわたる複合遺跡である。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に分布の概要について述べる。

当該地で人々の生活痕跡が確認されるようになるのは、後期旧石器時代にさかのぼる。花室川左岸の東岡中^{りがしおかなか}原遺跡〈21〉で、荒屋型彫刻刀形石器を含む細石刃石器群が確認されている²⁾。

縄文時代には、気候の温暖化が進み、海水面が上昇する縄文海進が始まる。霞ヶ浦や北浦一帯は、当時太平洋とつながる内海であったと考えられており、内海への河口部に面する当該地では、多数の遺跡が確認されている。おもな遺跡として柴崎遺跡（早期～前期、後期）〈31〉、上野古屋敷遺跡（前期～中期）〈33〉、上野陣場遺跡（前期～後期）〈34〉、上野天神遺跡（中期）〈36〉、花室遺跡（中期～後期）〈86〉、金田西坪 B 遺跡（中期～後期）〈19〉、中根中谷津遺跡（後期～晩期）〈10〉などがあげられる³⁾。また当遺跡から南東約 500 m に位置する上境旭台貝塚^{かみぞかいあまひだい}〈8〉は、後期から晩期にかけて形成されたヤマトシジミを主体とした貝塚であり、オオヤマネコの四肢骨や埋葬された可能性のある人骨が出土している⁴⁾。

弥生時代の遺跡は他の時代と比べて少なく、隣接する上野古屋敷遺跡⁵⁾や上野陣場遺跡⁶⁾で、後期の集落跡が確認されているほか数か所である。



第2図 上境作ノ内遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「上郷」「常陸藤沢」）

表1 上境作ノ内遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	上境作ノ内遺跡		○	○	○	○		○	47	栗原古塚古墳				○			
2	上境作ノ内古墳群				○				48	栗原登戸遺跡					○	○	
3	上境北ノ内遺跡					○	○	○	49	玉取遺跡		○	○	○	○		○
4	上境どんどん塚古墳				○				50	玉取古墳群				○			
5	上境古屋敷遺跡				○	○	○	○	51	玉取弁天塚						○	○
6	上境滝の台古墳群				○				52	栗原遺跡					○	○	○
7	上境滝ノ臺遺跡		○	○					53	栗原沼向遺跡				○	○	○	
8	上境旭台貝塚		○		○				54	稲荷塚古墳				○			
9	中根中谷津古墳				○				55	下大島遺跡							
10	中根中谷津遺跡	○	○			○			56	広畑遺跡				○	○	○	○
11	横町古墳群				○				57	田土部明神古墳群				○			
12	横町庚申塚遺跡		○		○	○	○	○	58	供養塚							○
13	金田古墳				○				59	田土部館跡						○	
14	金田城跡						○		60	大日塚古墳(鹿島神社)				○			
15	金田西遺跡		○		○	○	○	○	61	岡の宮遺跡		○		○	○		
16	九重東岡廃寺					○	○	○	62	五斗内遺跡				○	○		
17	東岡中畑遺跡					○			63	中根遺跡				○	○	○	
18	金田西坪A遺跡					○			64	中根不葉拔遺跡		○			○	○	○
19	金田西坪B遺跡		○		○	○			65	中根屋敷附館跡					○	○	○
20	東岡南遺跡					○	○	○	66	中根とりおい塚古墳群				○			
21	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○	○	67	中根宮ノ前遺跡					○	○	○
22	妻木宮前遺跡					○	○	○	68	栄土器屋遺跡					○	○	○
23	妻木坪内遺跡					○	○	○	69	松塚鷺打遺跡					○	○	○
24	妻木鴻ノ巢遺跡				○	○			70	栄屋敷付遺跡					○	○	○
25	柴崎南遺跡		○		○		○	○	71	松塚高畑遺跡				○	○	○	
26	柴崎稲荷前古墳				○				72	栄尼塚遺跡						○	○
27	柴崎大堀遺跡						○	○	73	金田竜宮橋遺跡					○	○	○
28	柴崎片岡上館跡					○	○	○	74	大白畑遺跡				○	○	○	○
29	柴崎ボツケ遺跡					○			75	大寺前遺跡				○	○	○	○
30	柴崎大日古墳				○				76	阿弥陀寺跡						○	○
31	柴崎遺跡		○		○	○	○		77	大南遺跡				○	○	○	○
32	上野中塚遺跡		○			○			78	古来島ノ前塚						○	○
33	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	○	79	古来北ノ崎遺跡					○	○	○
34	上野陣場遺跡		○	○	○	○	○		80	古来遺跡					○	○	
35	上野定使古墳群				○				81	古来館跡					○	○	
36	上野天神遺跡		○						82	上ノ室城跡		○			○	○	○
37	上野天神塚古墳				○				83	金田本田遺跡					○	○	
38	栗原大山西遺跡					○	○	○	84	花室大日塚古墳				○			
39	栗原十日塚古墳				○				85	花室後田塚						○	○
40	栗原大山遺跡				○	○			86	花室遺跡		○			○		
41	栗原愛宕塚古墳				○				87	東岡天神前遺跡					○	○	○
42	栗原才十郎遺跡		○						88	花室溝向遺跡					○		
43	栗原五竜遺跡		○		○	○	○		89	花室城跡		○	○	○	○	○	○
44	栗原五龍塚古墳				○				90	花室寺畑廃寺						○	
45	栗原中台遺跡		○	○	○	○	○	○	91	花室寺山前遺跡					○	○	○
46	栗原古塚遺跡					○	○	○	92	花室大根遺跡				○			

古墳時代の遺跡は、上野古屋敷遺跡で前期から中期、上野陣場遺跡で前期・後期の集落跡が確認されているほか、東岡中原遺跡で中期、柴崎遺跡⁷⁾で後期の集落跡がそれぞれ確認されている。古墳は、前期古墳として、当遺跡から北方500mに位置する上野天神塚古墳〈37〉^{うえの てんじんづか}があげられる。同古墳は、当地域最大の全長80mの前方後円墳である。後期古墳としては、当遺跡と遺跡範囲が一部重複する上境作ノ内古墳群〈2〉^{かみぞかいさくの うち}から、石棺を主体部とする小形の前方後円墳が確認されており、時期は6世紀後半と考えられている⁸⁾。また、隣接する上野古屋敷遺跡でも、同時期の前方後円墳1基が確認されており、周溝内土坑から円筒埴輪を使用した埴輪棺が確認されている。

奈良・平安時代の当該地は、河内郡菅田郷^{すがた}に属し、北は筑波郡に接している。12世紀には田中荘に属していた。菅田郷の郷域は、『新編常陸国誌』によれば、現在のつくば市松塚を東端とし、横町、中根、金田、上野、上境、柴崎、東岡、妻木、さらに花室川を越えて学園都市の中央部である吾妻、天久保を経て、荊間、大橋、新井、柳橋と蓮沼川に沿って南西へ広がり、大白裕、小白裕を西限とした地域に比定している⁹⁾。この地域における奈良・平安時代の遺跡は、蓮沼川流域は希薄で、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。すなわち、当遺跡の南約2kmに位置し、国指定史跡である金田官衙遺跡^{こんだにし}（金田西遺跡〈15〉・^{こんだにしつば}金田西坪A遺跡〈18〉・^{このえひがしおか}金田西坪B遺跡）、九重東岡廃寺〈16〉を中心として、約4km四方に密集している。金田西坪A遺跡は従来から河内郡衙の正倉跡と推定されていたが、平成14年に金田西・金田西坪B遺跡及び九重東岡廃寺の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡家の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった¹⁰⁾。九重東岡廃寺は、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である¹¹⁾。

中世・近世以降の遺跡は、上野古屋敷遺跡で、中世後半の掘立柱建物跡や地下式坑、墓坑、溝跡が多数確認されている。確認された遺構や出土土器から、15世紀末には墓域を伴う集落が成立し、16世紀代に拡大したのち、17世紀初頭には集落の移動があったことが想定されている。柴崎遺跡では、12～13世紀の方形竪穴遺構が95基確認され、中世の集落跡と想定されている。また、栗原古塚遺跡〈46〉^{くりはらふるづか}、栗原沼向遺跡〈53〉^{くりはらぬまむかい}、栗原白旗遺跡^{しらはた}、栄土器屋遺跡〈68〉^{さかえかわらけや}などの包蔵地も確認されており、栄土器屋遺跡の試掘調査では13～16世紀に渡る土師質土器が多数出土している¹²⁾。これら以外に城館跡も多く、桜川右岸には、柴崎片岡上館跡〈28〉^{しばさきかたおかじょうかん}、金田城跡〈14〉^{こんだ}、花室城跡〈89〉^{はなむろ}、上ノ室城跡〈82〉^{うえのむろ}があり、桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡^{おだ}、田土部館跡〈59〉^{たどべ}などが位置している。当該地は、鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで上野地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は上野・栗原地区は堀氏玉取藩の知行地であったが、旧桜村の多くは土浦藩に属することになり、明治4年（1871年）の廃藩置県に至っている。

※本章は、『茨城県教育財団文化財調査報告』第334集をもとに、若干加筆したものである。なお、文中の〈 〉内の番号は、第2図及び表1の該当番号と同じである。

註

- 1) 大山年次監修『茨城県 地学のガイド』コロナ社 1977年8月
- 2) a 成島一也「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集 2000年3月
b 成島一也・宮田和男「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月
c 高野節夫・白田正子・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
d 駒澤悦郎「東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第252集 2004年3月
- 3) つくば市教育委員会『つくば市遺跡分布調査報告書 - 谷田部地区・桜地区 -』2001年3月
- 4) a 柴山正広・須賀川正一・小野政美・小川貴行・越川欣和「上境旭台貝塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第325集 2009年3月
b 江原美奈子「上境旭台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第364集 2012年3月
- 5) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕「上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月
b 川井正一「上野古屋敷遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月
c 齊藤和浩・川井正一「上野古屋敷遺跡3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第324集 2009年3月
d 櫻井進介・江原美奈子「上野古屋敷遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第334集 2010年3月
- 6) a 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
b 川井正一・齊藤和浩「上野陣場遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第323集 2009年3月
- 7) a 土生朗治「研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 柴崎遺跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
b 萩野谷悟「研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月
- 8) つくば市教育委員会『つくば市内遺跡』つくば市 2001年3月
- 9) 中山信名著 栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会版 崙書房 1978年12月
- 10) 白田正子「金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 11) a 九重廃寺遺跡調査団『東岡遺跡-九重廃寺跡調査報告-』桜村教育委員会 1984年3月
b 白田正子『九重東岡廃寺確認調査報告書1』茨城県教育財団 2001年3月
- 12) つくば市教育委員会『つくば市内遺跡』つくば市 2006年3月

参考文献

- ・桜村史編さん委員会『桜村史 上巻・下巻』桜村教育委員会 1982年3月
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』2001年3月
- ・つくば市教育委員会『つくば市遺跡地図』2001年7月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

上境作ノ内遺跡は、桜川右岸の標高23～26mの台地上に立地している。遺跡の範囲は南北170m、東西150mで、扇状に広がる台地の基部にあたる。調査区は遺跡の南端部、桜川低地から延びる支谷に面した台地縁辺部に位置している。調査面積は3,563㎡で、調査前の現況は山林である。

調査の結果、縄文時代の遺物包含層3か所、平安時代の土坑1基、江戸時代の溝跡3条、時期不明の掘立柱建物跡1棟、粘土採掘坑1基、土坑28基、溝跡10条、ピット群2か所を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に11箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器(深鉢・浅鉢)、弥生土器(壺)、土師器(坏・器台・甕)、須恵器(坏・蓋・甕・甑)、土師質土器(内耳鍋・小皿)、陶器(碗・蓋・皿・瓶・播鉢・灯明受皿・德利)、磁器(碗・小瓶カ・皿・仏飯器・盃)、土製品(土器片錘・埴輪)、石器(ナイフ形石器・鎌・打製石斧・石皿・磨石・敲石・砥石)、石製品(双孔円板)、鉄製品(鎌・釘)、ガラス製品(不明)などである。

第2節 基本層序

調査区北部の台地上の平坦面(B3g2区)にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った(第3図)。

第1層は、褐色を呈する表土である。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は32～34cmである。

第2層は、褐色を呈する粘土層への漸移層である。黒色粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりは強く、層厚は19～26cmである。

第3層は、にぶい橙色を呈する粘土層である。鉄分・赤色粒子を微量に含み、粘性、締まりともに強く、層厚は30～38cmである。

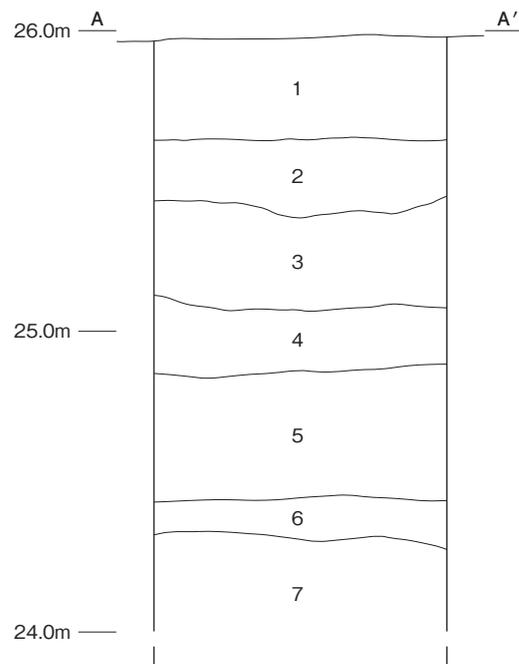
第4層は、にぶい橙色を呈する粘土層である。鉄分を少量含み、粘性、締まりともに強く、層厚は19～25cmである。

第5層は、明褐灰色を呈する粘土層である。鉄分を微粒に含み、粘性、締まりともに強く、層厚は40～45cmである。

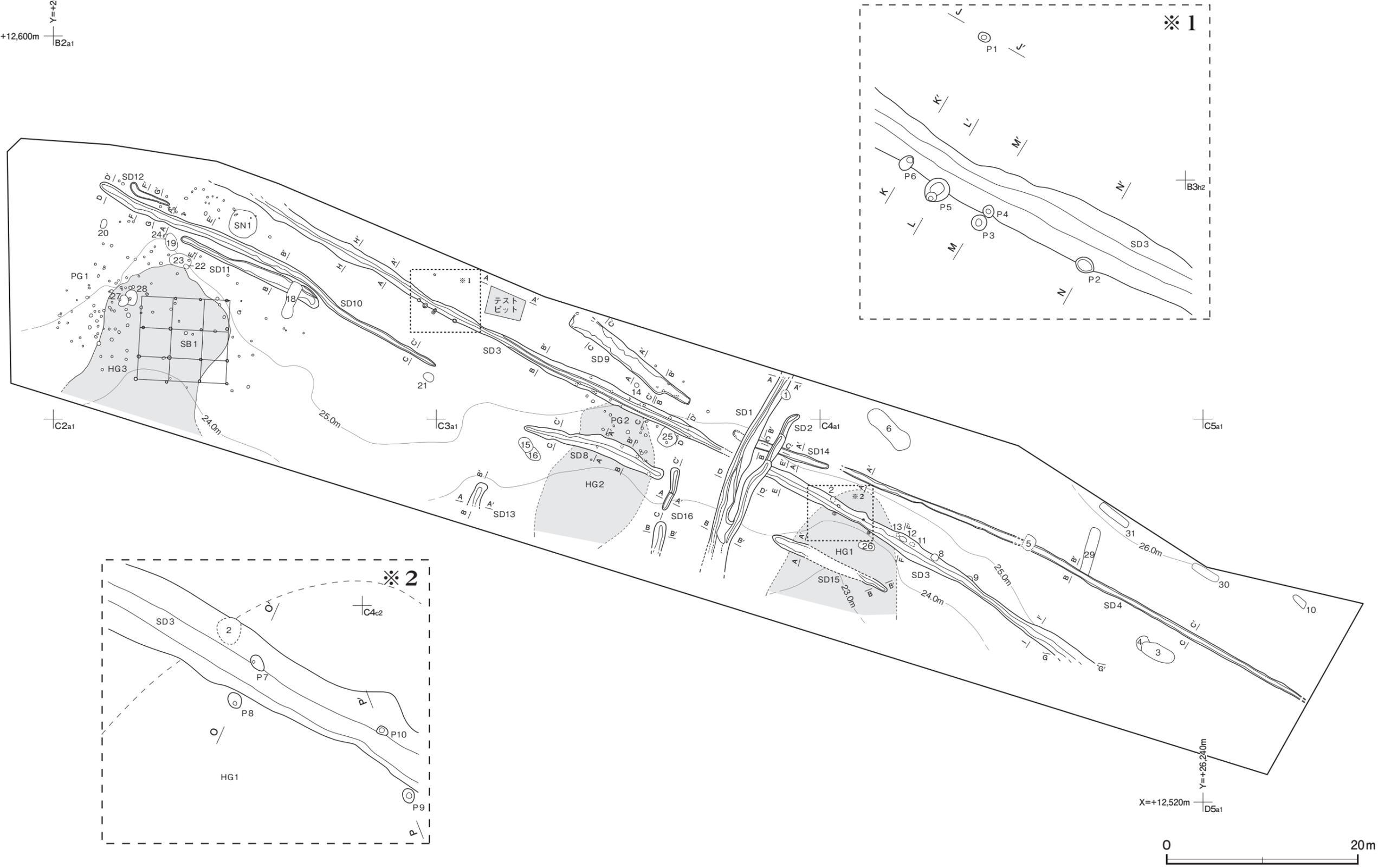
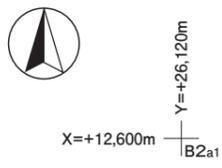
第6層は、明赤褐色を呈する粘土層である。鉄分を多量に含み、粘性、締まりともに強く、層厚は10～15cmである。

第7層は、明褐灰色を呈する粘土層である。粘性、締まりともに強く、層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は、第2層の上面で確認できた。



第3図 基本土層図



第4図 上境作ノ内遺跡遺構全体図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、遺物包含層3か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

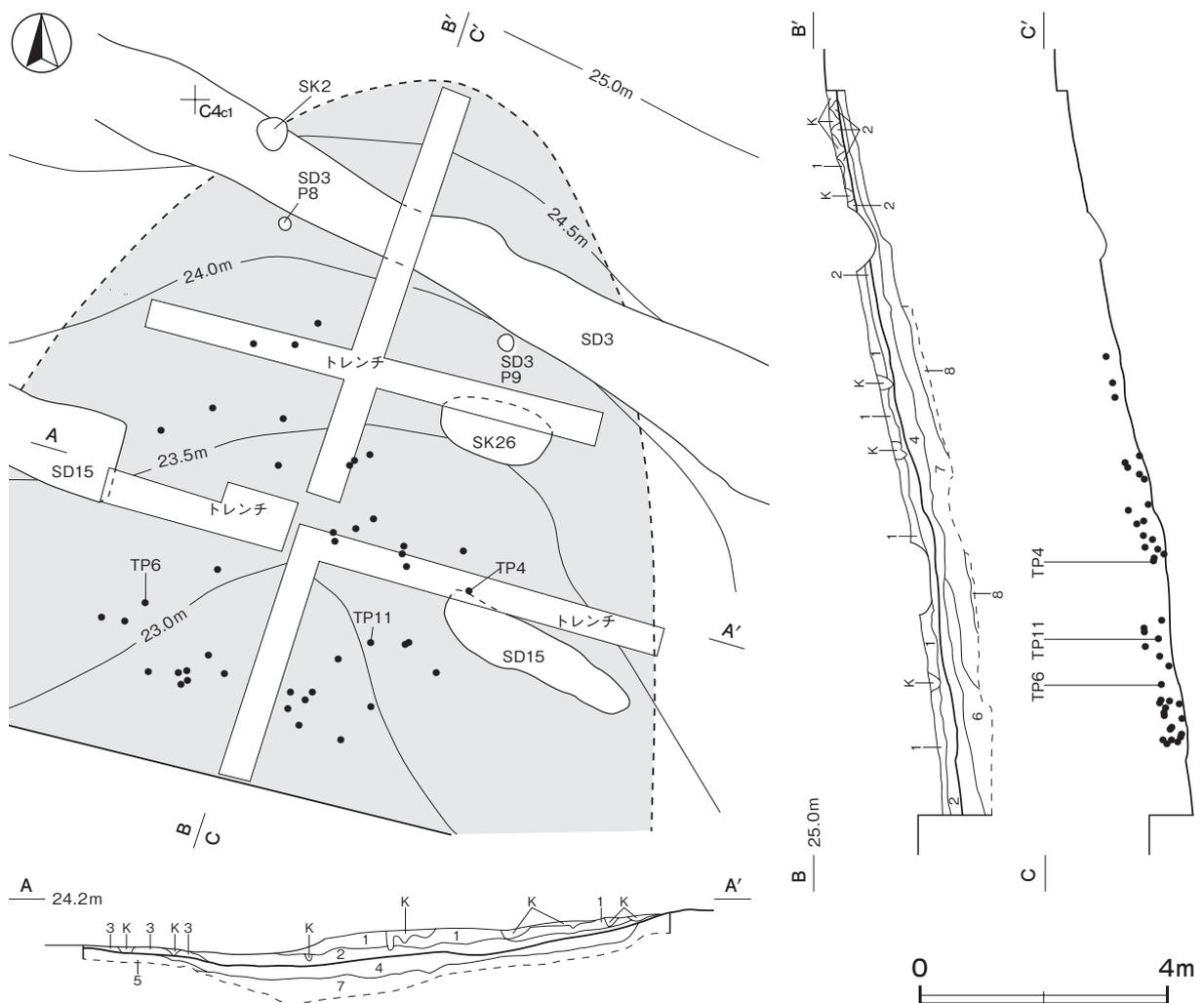
遺物包含層

第1号遺物包含層（第5・6図）

位置 調査区東部のC 4 b1～C 4 f2区、標高22～24 mの緩斜面部に位置し、西側に存在する第2号遺物包含層とは16 m離れている。

重複関係 第2・26号土坑、第3・15号溝に掘り込まれている。

確認状況 調査区の表土を除去した段階で、東部のC 4 e1区を中心とする緩斜面部に、土器片を含む黒褐色土が堆積していることを確認した。地形的には、調査区南側の支谷から北東方向に延びる垂支谷の谷頭にあたり、標高22～24 mの緩斜面である。遺物が検出された範囲は東西6.3 mで、南北は南部が調査区域外に延びているため7.0 mしか確認できなかった。



第5図 第1号遺物包含層実測図

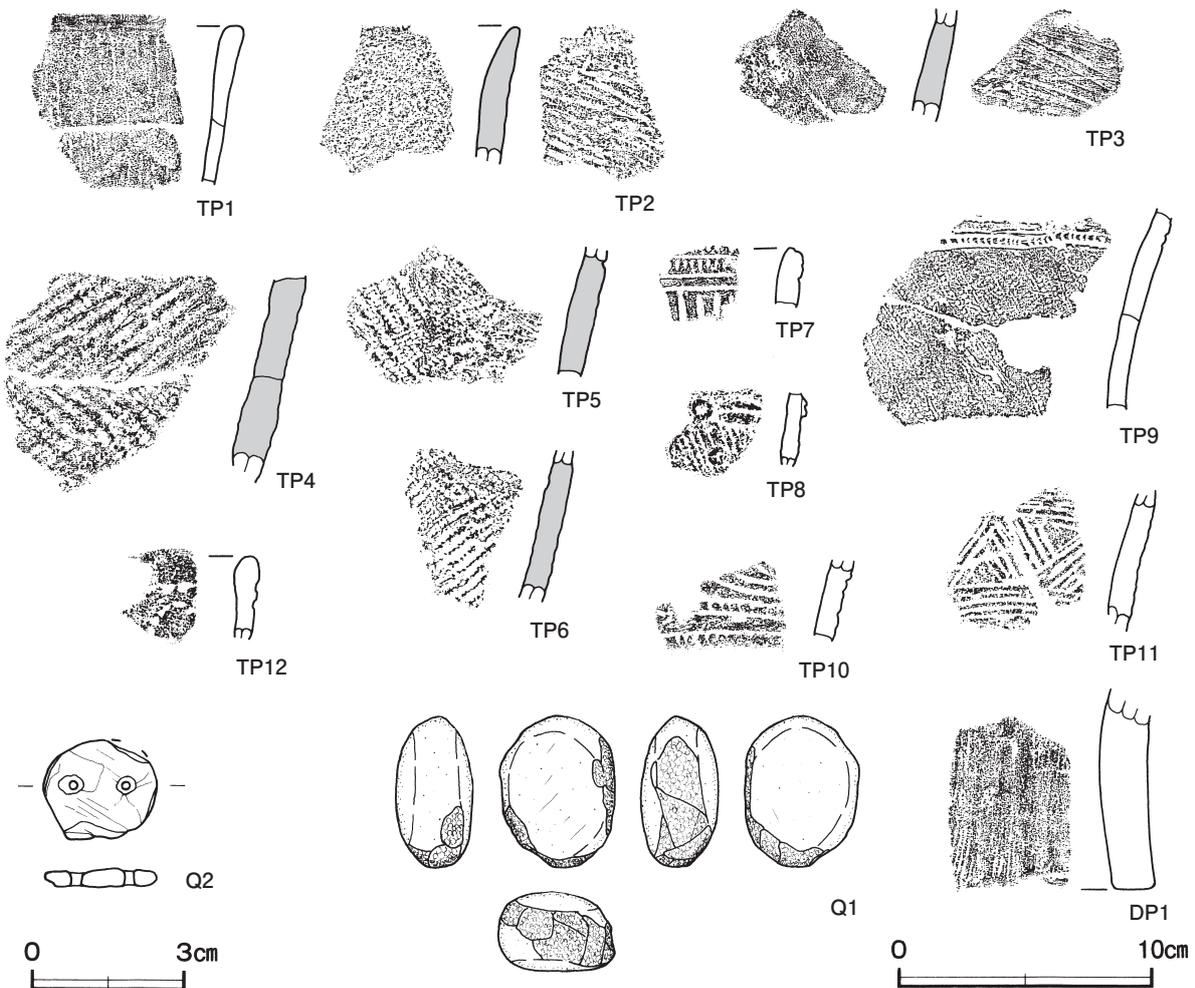
土層 3層に分層できる。遺物を包含しているのは、現地表下0.4 mに自然堆積している黒褐色及び極暗褐色の第1～3層である。層厚は、最深部で45cmである。第4層以下も土砂の流入によって堆積した自然堆積土であるが、遺物は検出されなかった。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子・白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子・白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・白色粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量
		7 褐色	ローム粒子多量, 白色粒子少量
		8 褐色	ローム粒子・白色粒子中量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 231点, 土師器片 6点, 須恵器片 4点, 土師質土器片 4点, 土製品 1点 (埴輪), 石器 5点 (磨石 4, 敲石 1), 石製品 1点 (双孔円板), 剥片 5点が出土している。土器片は大部分が細片で、縄文時代前期のものが主体である。遺物は、谷筋方向のC 4 d1～C 4 e1区付近から最も多く出土しており、周囲にいくに従って希薄である。

所見 土層観察から、谷部に土砂が堆積した後、ゆるやかな斜面に向かって台地上から遺物が流れ込んで、形成されたものと考えられる。出土土器から、縄文時代の早期後葉から遺物が流入し、前期後半には谷部はほぼ埋没したが、その後も遺物が流入し、中世以降に完全に埋没したものと考えられる。



第6図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第1号遺物包含層出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	包含層中	PL 3
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	内面に条痕文	包含層中	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	内面に条痕文	包含層中	
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	灰褐	単節縄文による羽状縄文	C 4e2	PL 3
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐	単節縄文による羽状縄文	包含層中	PL 3
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・繊維	暗褐	単節縄文による羽状縄文	C 3e0	
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	赤褐	口唇部にキザミ 沈線文	包含層中	
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	地文は条線文 隆帯を貼付	包含層中	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐	半截竹管による爪形文 附加条縄文	包含層中	PL 3
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐	半截竹管による爪形文	包含層中	PL 3
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	沈線による区画文	C 4e1	PL 3
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	半截竹管による結節沈線文	包含層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	円筒埴輪	(8.0)	(4.8)	(2.1)	(82.9)	長石・石英・雲母	縦方向のハケ調整	包含層中	PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	敲石	6.0	4.5	3.1	125.1	安山岩	下端・側縁に敲打痕 磨石兼用	包含層中	PL 3
Q 2	双孔円板	2.0	2.2	0.4	(2.4)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 孔径 0.2cm	包含層中	PL 4

第2号遺物包含層（第7・8図）

位置 調査区中央部の B 3j5～C 3d5 区、標高 23～25 m の緩斜面部に位置し、第1号遺物包含層は東へ 16 m 離れている。

重複関係 第3・8号溝、第2号ピット群に掘り込まれている。

確認状況 調査区の表土を除去した段階で、中央部の C 3c5 区を中心とする緩斜面部に、土器片を含む黒色土が堆積していることを確認した。地形的には第1号遺物包含層と同様に、調査区南側の支谷から北東方向に延びる亜支谷の谷頭にあたり、標高 23～25 m の緩斜面である。遺物が検出された範囲は東西 8.8 m で、南北は南部が調査区域外に延びているため 11.5 m しか確認できなかった。

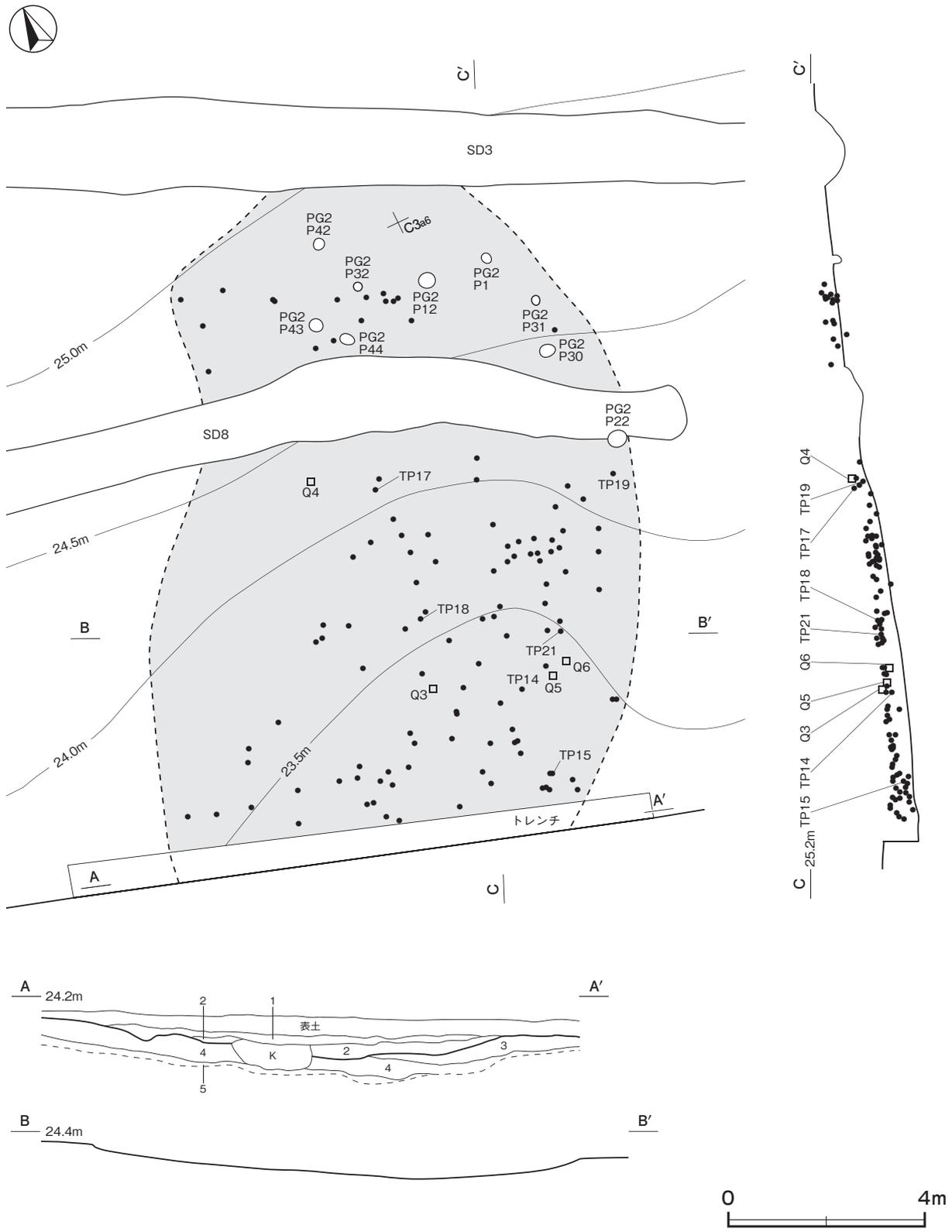
土層 2層に分層できる。遺物を包含しているのは、現地表下 0.2～0.4 m に自然堆積している黒色及び黒褐色の第1・2層である。層厚は、最深部で 50cm である。第3層以下も土砂の流入によって堆積した自然堆積土であるが、遺物は検出されなかった。

土層解説

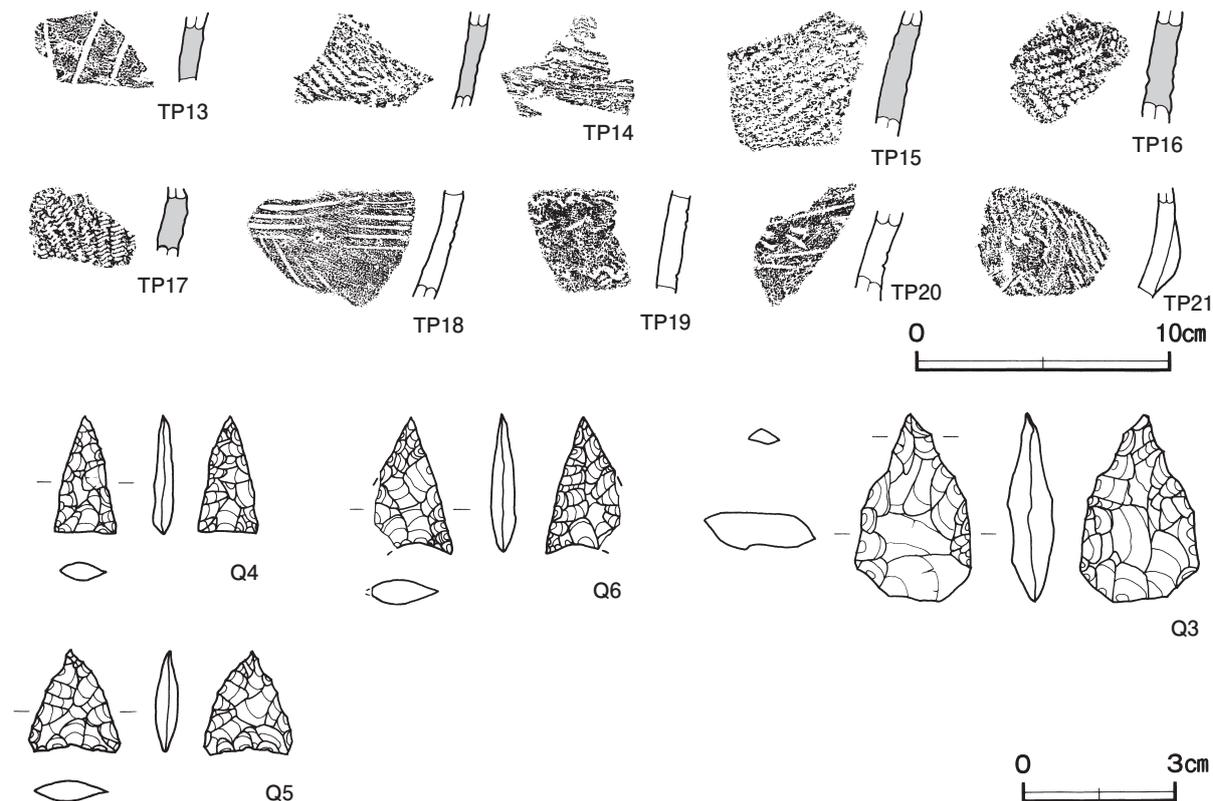
1 黒色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量	3 黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子少量、白色粒子微量
		5 暗褐色	ローム粒子・白色粒子・砂粒中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 256 点、土師器片 7 点、須恵器片 2 点、土師質土器片 6 点、石器 5 点（鏃 4、磨石 1）、剥片 25 点が出土している。土器片は大部分が細片で、縄文時代前期のものが主体である。遺物は、谷筋方向の C 3b5～C 3c5 区付近から最も多く出土しており、周囲にいくに従って希薄である。

所見 土層観察から、隣接する第1号遺物包含層と同様の形成過程が考えられる。出土土器も第1号遺物包含層とほぼ同時期であり、縄文時代の早期後葉から遺物が流入し、前期後半には谷部はほぼ埋没したが、その後も遺物の流入は続き、中世以降に完全に埋没したものと考えられる。



第7図 第2号遺物包含層実測図



第8図 第2号遺物包含層出土遺物実測図

第2号遺物包含層出土遺物観察表（第8図）

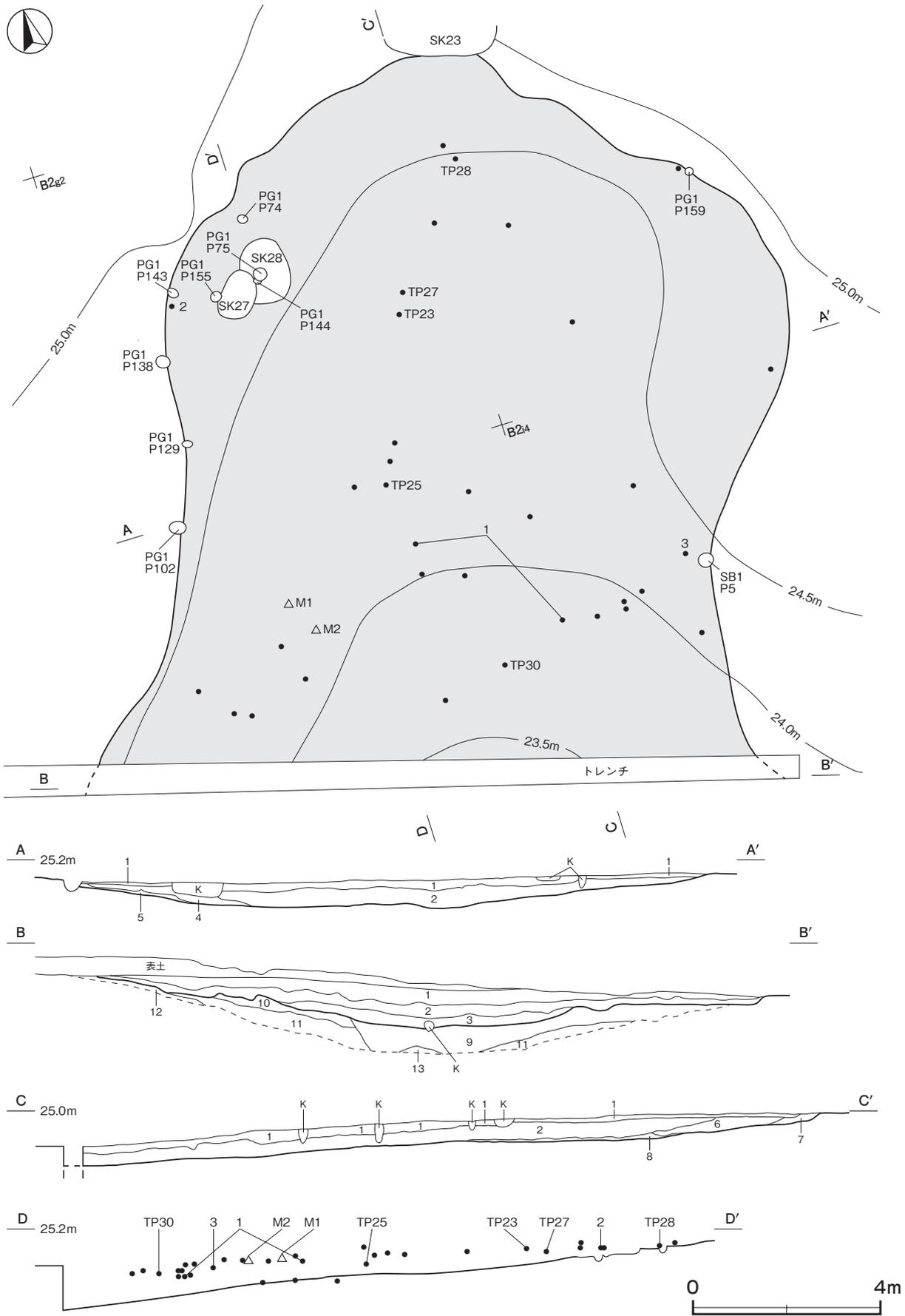
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	褐	沈線文	包含層中	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にぶい黄褐	RLの単節縄文 内面に貝殻条痕文	C 3c5	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	RLの単節縄文	C 3c5	PL 3
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	単節縄文による羽状縄文	包含層中	
TP17	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	0段多条によるRLの単節縄文	C 3b5	
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	櫛歯状工具による沈線文	C 3b5	PL 3
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	S字状の結節文	C 3b6	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	沈線文間に連続する刺突文	包含層中	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	貼付文 LRの単節縄文	C 3c5	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	鏃	3.7	2.3	0.9	5.1	珪質頁岩	未製品 両面押圧剥離	C 3c5	PL 3
Q 4	鏃	2.4	1.2	0.4	0.8	珪質頁岩	両面押圧剥離 平基無茎鏃	C 3b5	PL 3
Q 5	鏃	2.0	1.6	0.4	1.0	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	C 3c5	PL 3
Q 6	鏃	2.7	(1.5)	0.5	(1.5)	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	C 3c5	PL 3

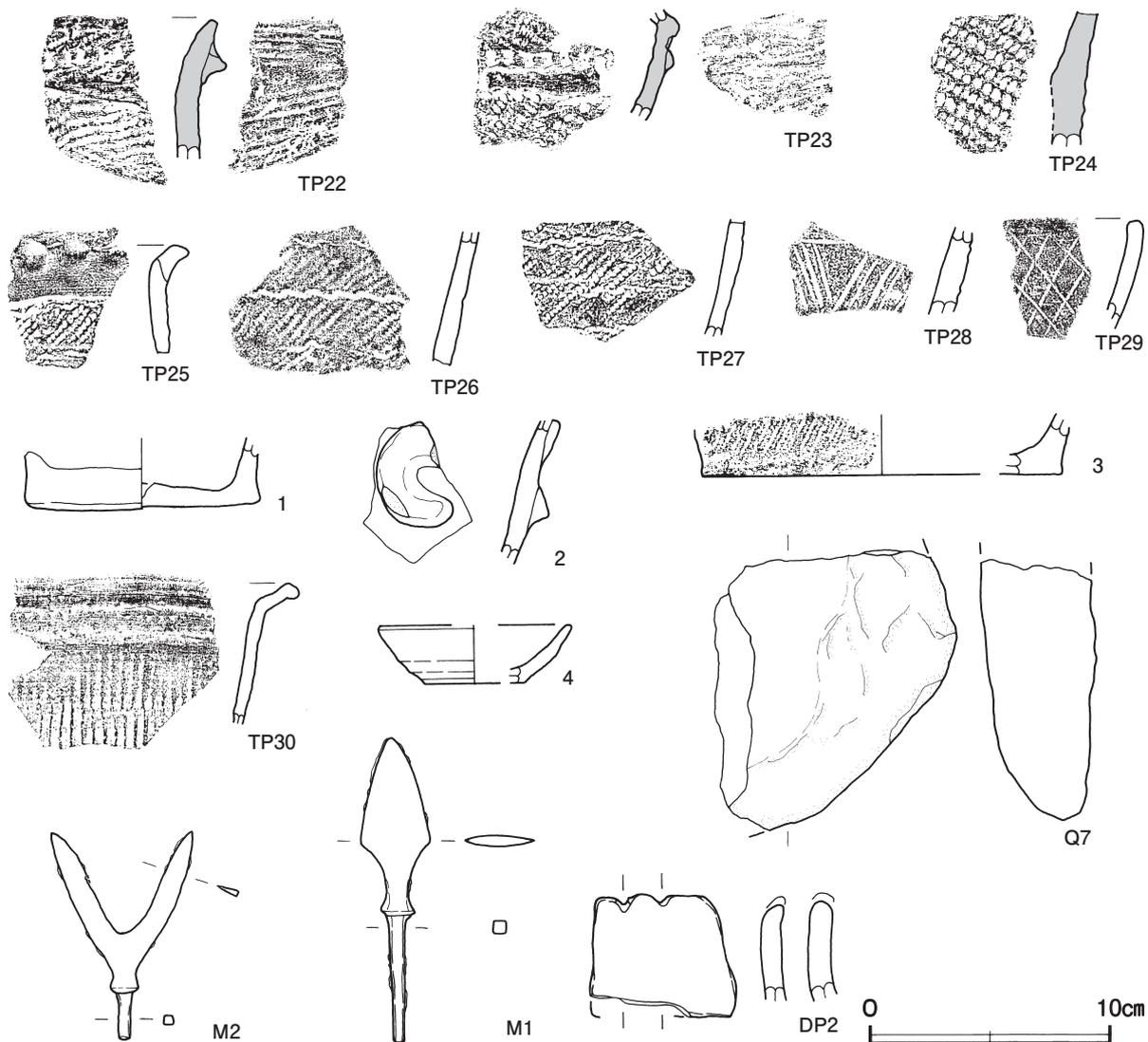
第3号遺物包含層（第9・10図）

位置 調査区西部のB 2g2～C 2a4区，標高23～24mの緩斜面部に位置し，第2号遺物包含層は東へ35m離れている。

重複関係 第1号掘立柱建物跡，第23・27・28号土坑，第1号ピット群に掘り込まれている。



第9図 第3号遺物包含層実測図



第10図 第3号遺物包含層出土遺物実測図

確認状況 調査区の表土を除去した段階で、西部のB 2i3区を中心とする緩斜面部に、土器片を含む黒褐色土が堆積していることを確認した。地形的には第1・2号遺物包含層と同様に、調査区南側の支谷から北東方向に延びる亜支谷の谷頭にあたり、標高23～24mの緩斜面である。遺物を包含している範囲は東西10.8mで、南北は南部が調査区域外に延びているため12.0mしか確認できなかった。

土層 8層に分層できる。遺物を包含しているのは、現地表下0.4mに自然堆積している黒褐色を主体とした第1～8層である。層厚は、最深部で84cmである。第9層以下も土砂の流入によって堆積した自然堆積土であるが、遺物は検出されなかった。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量（縮まり強い） |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・白色粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・黒色粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・白色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 灰褐色 | 白色粒子多量、ローム粒子少量 |
| | | 13 黒褐色 | ローム粒子少量、黒色ブロック・白色粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 259 点, 弥生土器片 1 点, 土師器片 8 点, 須恵器片 1 点, 土師質土器片 11 点, 陶器片 1 点, 磁器片 5 点, 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 2 点 (石皿, 磨石), 鉄製品 7 点 (鏃 2, 釘 4, 不明 1), 瓦片 3 点, 鉄滓 1 点, 剥片 6 点が出土している。土器片は大部分が細片で, 縄文時代前期のものが主体である。遺物は, 谷筋方向の B 2i3 ~ B 2j3 区付近から最も多く出土しており, 周囲にいくに従って希薄である。M 1・M 2 は, 覆土上層の第 1 層から隣接して出土しており, 同じ層位からは土師質土器の小皿も出土している。

所見 土層観察から, 第 1・2 号遺物包含層と同様の形成過程が考えられる。第 1・2 号遺物包含層より上位に位置しているため, 出土遺物に若干の時期差が認められる。出土土器から, 縄文時代の早期後葉から遺物が流入し, 前期後半には谷部はほぼ埋没したが, その後も近世に至るまで遺物が流入し, 完全に埋没したものと考えられる。

第 3 号遺物包含層出土遺物観察表 (第 10 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(28)	9.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部片 平底	B 2i3 B 2j3	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯によって文様を描出	B 2g2	5% PL 3
3	弥生土器	壺	-	(25)	[148]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	附加条一種縄文	B 2i4	5%
4	土師質土器	小皿	[7.8]	2.5	[4.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	包含層中	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	口縁部に半截竹管による結節沈線文 無節縄文 内面条痕文	包含層中	PL 3
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部に縄文施文 口縁部に半截竹管による結節沈線文 LR の単節縄文 内面条痕文	B 2h3	PL 3
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	RL の単節縄文	包含層中	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	LR の単節縄文 結節文	B 2i3	PL 3
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	LR の単節縄文 結節文	包含層中	PL 3
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	LR の単節縄文 結節文	B 2h3	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	沈線による区画文	B 2g4	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	格子目文	包含層中	PL 3
TP30	須恵器	甌	長石・雲母	灰黄褐	外面縦位の平行叩き	B 2j3	PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 2	土器片錘	(5.1)	5.9	1.1	(36.3)	長石・石英	上端にキザミ 2 か所 周縁部研磨 無文 一部欠損	包含層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	石皿	(11.8)	(10.1)	(4.8)	(685.7)	雲母片岩	表面に使用痕	包含層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鏃	12.7	2.8	0.6	28.0	鉄	鏃身部柳葉式 茎部断面方形	B 2i2	PL 4
M 2	鏃	8.8	6.0	0.5	18.8	鉄	鏃身部雁又式 茎部断面方形	B 2i2	PL 4

表 2 遺物包含層一覧表

番号	位置	規模		主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
		範囲 (m)	深さ (cm)		
1	C 4b1 ~ C 4f2	(7.0) × 6.3	45	縄文土器片, 磨石, 敲石, 双孔円板	本跡→SK 2・26, SD 3・15
2	B 3j5 ~ C 3d5	(11.5) × 8.8	50	縄文土器片, 石鏃, 磨石	本跡→SD 3・8, PG 2
3	B 2g2 ~ C 2a4	(12.0) × 10.8	84	縄文土器片, 須恵器片, 土師質土器片, 鉄鏃	本跡→SB 1, SK23・27・28, PG 1

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

土坑

第9号土坑（第11図）

位置 調査区東部のC4e4区、標高24mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.67mで、短径は0.54mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。深さは35cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

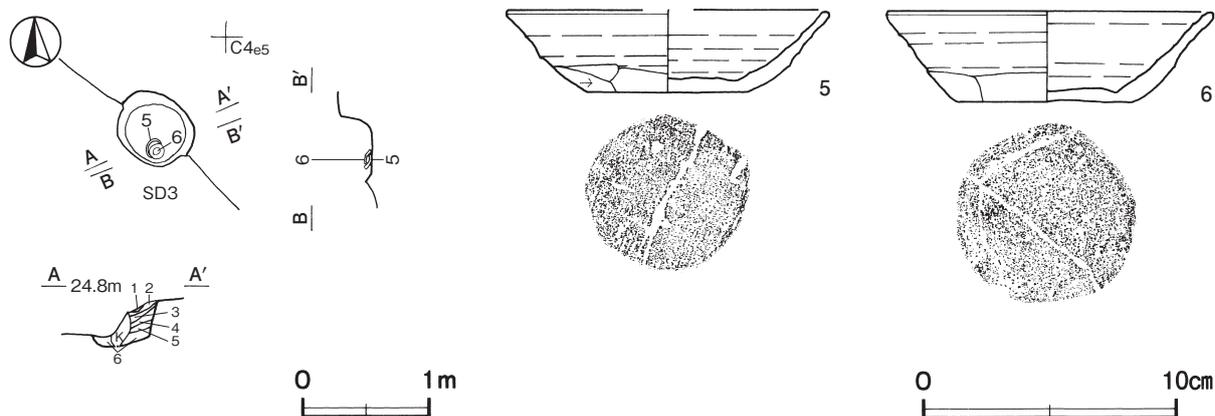
覆土 6層に分層できる。全体として、締まりが強い。ローム土や粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・黒色ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子・白色粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 灰白色 | 粘土粒子多量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器坏2点が出土している。底面から正位で出土している5の坏に、6の坏が逆位で重なって出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。2個体の坏は、欠損している部位はあるが、合わせ口の状態出土している。意図的に置かれた可能性があり、胞衣の埋納が想定される。



第11図 第9号土坑・出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	須恵器	坏	[12.6]	3.3	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	底面	70% PL 4
6	須恵器	坏	12.8	3.6	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	不良	体部下端・底部手持ちヘラ削り	覆土下層	90% PL 4

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡3条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

溝跡

第1号溝跡（第4・12図）

位置 調査区中央部のB 3i9～C 3d8区で、標高23～25mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第3・14号溝跡を掘り込み、第2号溝に掘り込まれている。第1号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 確認できた長さは18.7mで、北東方向（N-28°-E）へ直線状に延び、両端とも調査区域外に至っている。上幅106～175cm、下幅10～33cm、深さ25～33cmである。断面形は浅いU字状で、東壁はゆるやかに傾斜して立ち上がり、中位に段を有している。

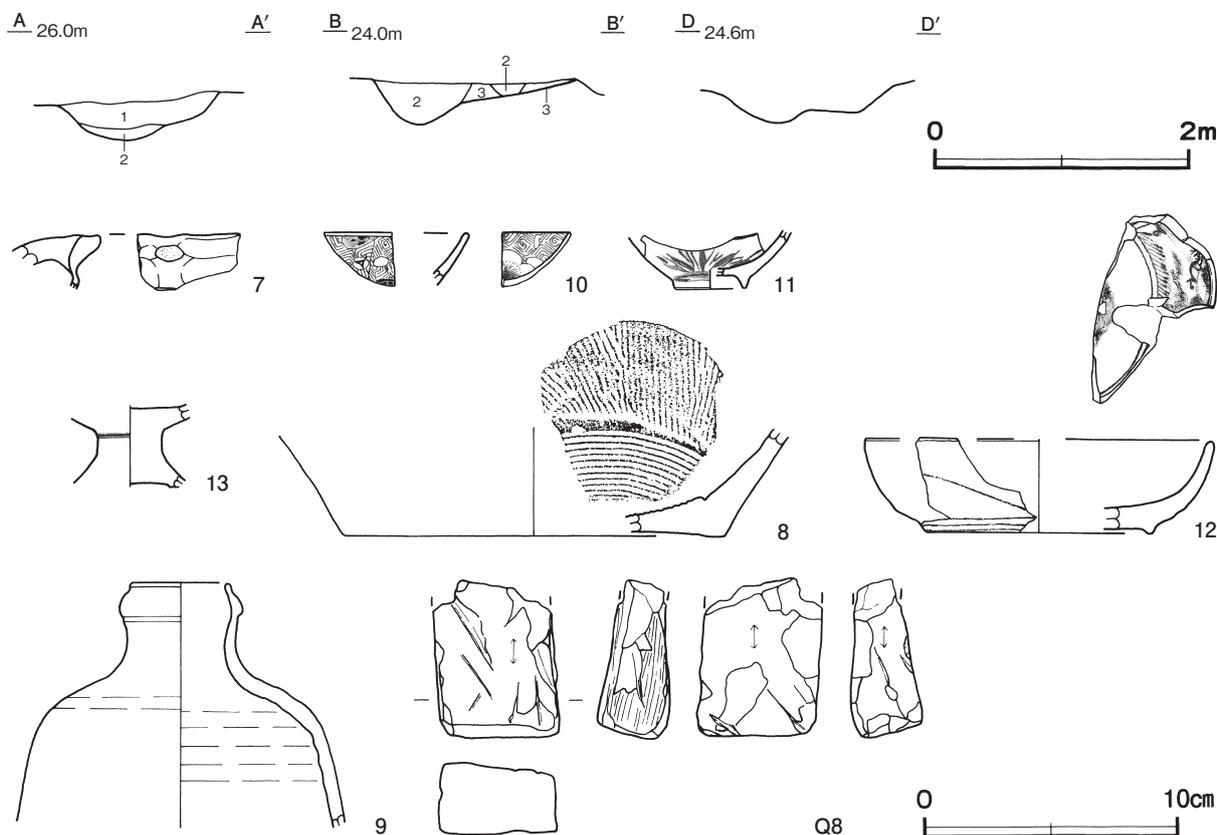
覆土 3層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片3点（内耳鍋1、不明2）、陶器片11点（碗1、蓋1、播鉢1、徳利1、不明7）、磁器片13点（碗9、小瓶カ1、皿1、仏飯器1、不明1）、石器1点（砥石）、瓦片14点のほか、混入した土師器片7点、敲石1点、ガラス製品2点が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀後半以降と考えられる。性格については、何らかの区画溝と考えられるが、詳細は不明である。



第12図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師質土器	内耳鍋	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	耳付近ナデ	南部覆土中	5%
8	陶器	播鉢	-	(4.3)	[15.0]	長石・石英・黒色粒子	暗赤褐	普通	1単位12条以上の播り目	中央部覆土中	5% PL 4
9	陶器	徳利	3.8	(9.7)	-	長石 灰釉	灰黄褐	良好	外面施釉 内面露胎 高田徳利	南部覆土中	10% PL 4
10	磁器	碗	-	(2.1)	-	緻密 透明釉	灰	良好	印版 内面に梅	北部覆土中	5%
11	磁器	小瓶カ	-	(2.3)	[2.8]	緻密 透明釉	灰白	良好	外面草花文	中央部覆土中	10% PL 4
12	磁器	皿	[13.6]	3.7	[9.0]	緻密 透明釉	明青灰	良好	外面唐草文カ 内面草花文	南部覆土中	20% PL 4
13	磁器	仏飯器	-	(3.3)	-	緻密 透明釉	灰白	良好	台底輪高台	南部覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	(6.3)	5.0	2.8	(105.4)	流紋岩	砥面3面 右側面に加工痕残存	北部覆土中	PL 4

第3号溝跡 (第4・13図)

位置 調査区西部から東部にかけてのB 2d5～C 4g8区で、標高24～25mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第9・12・25号土坑、第1・2号遺物包含層を掘り込み、第8号土坑、第1・2号溝に掘り込まれている。第2・11・13号土坑、第2号ピット群とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 確認できた長さは99.1mで、南東方向(N-119°-E)へ直線状に延び、両端とも調査区域外に至っている。上幅54～192cm、下幅15～38cm、深さ20～55cmである。断面形は浅いU字状である。

ピット 10か所。覆土には共通性が認められ、同時期に機能していたと考えられる。深さは、P 1～P 6は14～30cm、P 7～P 10は12～30cmで、溝に関連する何らかの施設が存在したと考えられるが、詳細は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

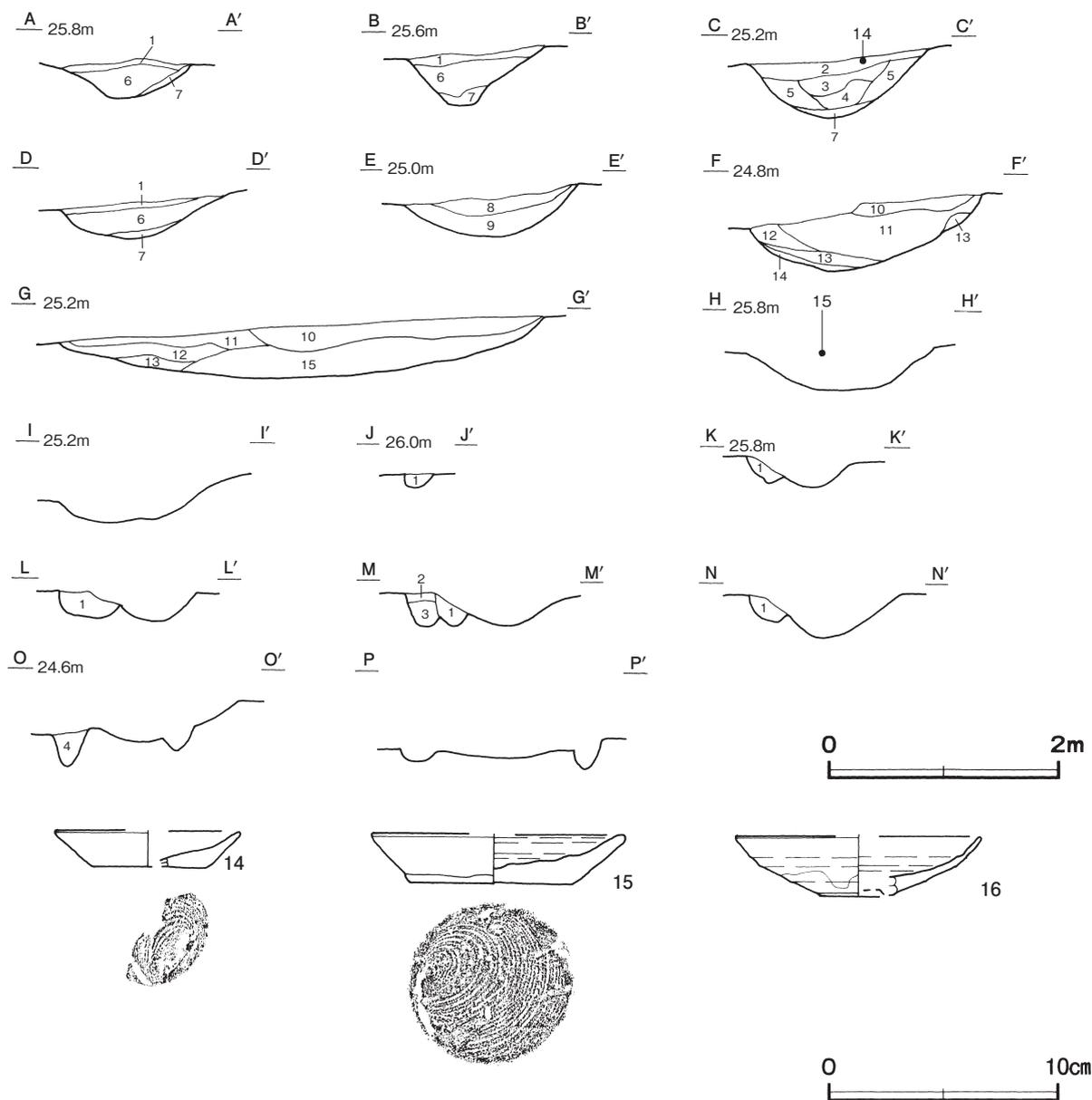
覆土 15層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量 | 7 褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | 白色粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、白色粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 6 黒色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 13 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| | | 14 暗褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 |
| | | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片34点、土師器片19点、須恵器片2点、土師質土器片24点(小皿17, 不明7), 陶器片1点(皿), 土製品8点(埴輪), 石器3点(ナイフ形石器, 打製石斧, 磨石), 鉄製品1点(釘カ), 瓦片3点, 剥片2点が出土している。14は中央部, 15は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀後半に比定できる。5m南に位置する第10号溝跡は、走行方向がほぼ同じで、形状も類似する。また、出土土器から同時期に機能していたと考えられ、両遺構の関連が想定されるが、性格については不明である。



第13図 第3号溝跡・出土遺物実測図

第3号溝跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師質土器	小皿	[7.9]	1.6	[4.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	中央部 覆土上層	25%
15	土師質土器	小皿	[11.0]	2.2	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	西部 覆土上層	70%
16	陶器	皿	[10.6]	2.6	[3.1]	緻密 灰釉	にぶい黄橙	良好	外・内面施釉 体部下端露胎	覆土中	20%

第10号溝跡（第4・14図）

位置 調査区西部の B 2 d2 ~ B 2 i0 区で、標高 25 m の緩斜面部に位置している。

規模と形状 長さは 39.9 m で、南東方向（N - 117° - E）へ直線状に延びている。上幅 44 ~ 120 cm，下幅 20 ~ 62 cm，深さ 9 ~ 22 cm である。断面形は浅い U 字状である。

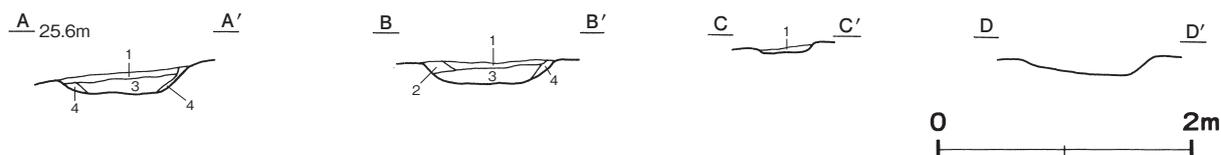
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 2 点, 土師器片 1 点, 須恵器片 1 点, 土師質土器片 2 点 (小皿), 陶器片 1 点 (不明), 磁器片 3 点 (碗), 石器 1 点 (磨石), 瓦片 3 点, 剥片 2 点が覆土中から出土している。いずれも細片で, 図示することができない。

所見 第 3 号溝跡と走行方向がほぼ同じであることや出土土器から, 時期は 18 世紀後半と考えられる。第 3 号溝跡とは, 機能的な関連が想定されるが, 性格については不明である。



第 14 図 第 10 号溝跡実測図

表 3 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長さ (m)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	深さ (cm)					
1	B 3 i9 ~ C 3 d8	N - 28° - E	直線	(18.7)	106 ~ 175	10 ~ 33	25 ~ 33	浅い U 字状	外傾 緩斜	人為	土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 砥石	SD 3・14 → 本跡 → SD 2 SK 1 と新旧不明
3	B 2 d5 ~ C 4 g8	N - 119° - E	直線	(99.1)	54 ~ 192	15 ~ 38	20 ~ 55	浅い U 字状	外傾	自然	土師質土器片, 陶器片, 釘カ	SK 9・12・25, HG 1・2 → 本跡 → SK 8, SD 1・2, SK 2・11・13, PG 2 と新旧不明
10	B 2 d2 ~ B 2 i0	N - 117° - E	直線	39.9	44 ~ 120	20 ~ 62	9 ~ 22	浅い U 字状	外傾	自然	土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 瓦片	

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で, 時期や性格が明らかでない掘立柱建物跡 1 棟, 粘土採掘坑 1 基, 土坑 28 基, 溝跡 10 条, ピット群 2 か所を確認した。以下, 遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第 1 号掘立柱建物跡 (第 15 図)

位置 調査区西部の B 2 g3 ~ B 2 j5 区, 標高 24 m の緩斜面部に位置している。

重複関係 第 3 号遺物包含層を掘り込んでいる。

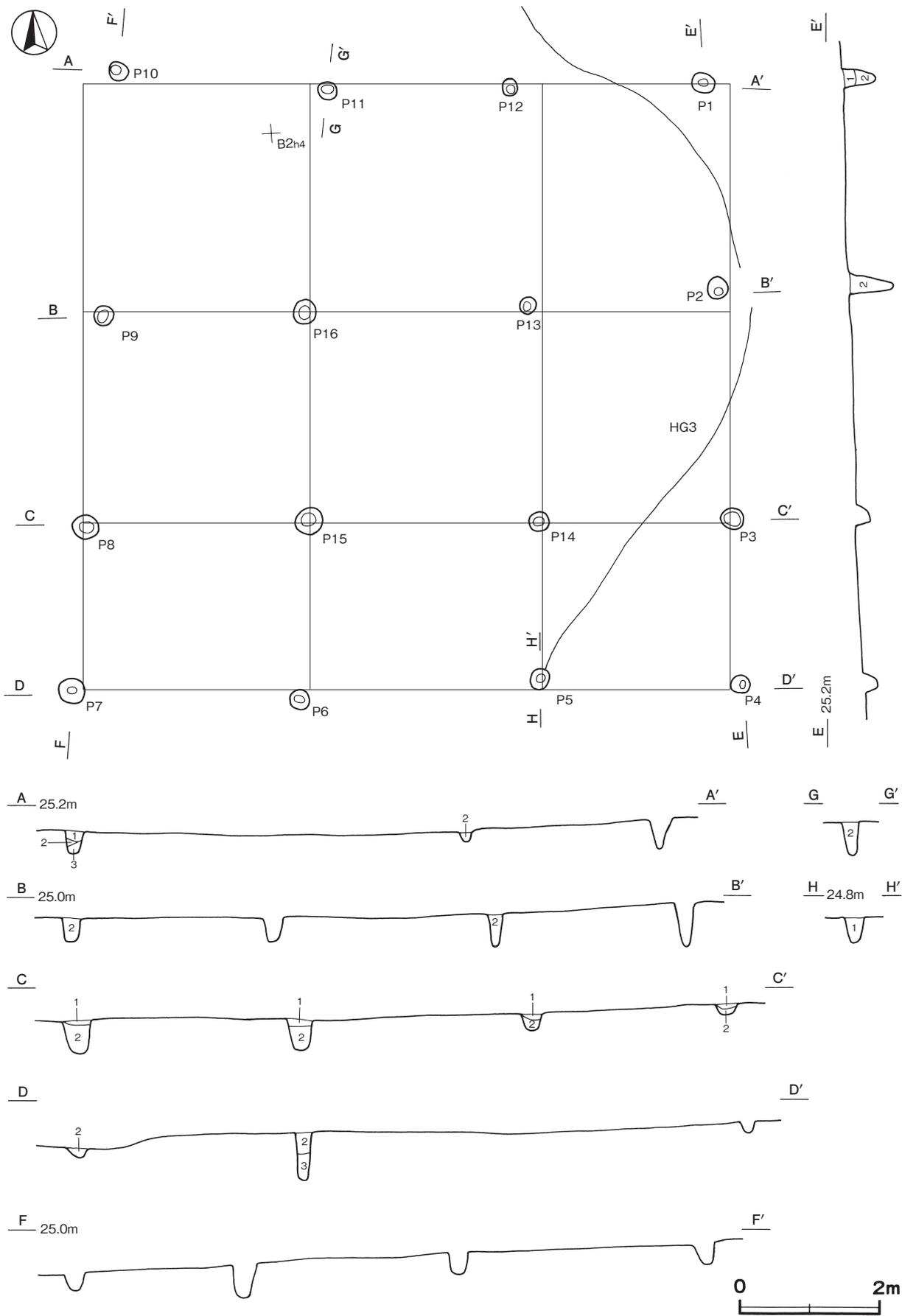
規模と形状 桁行 3 間, 梁行 3 間の総柱建物跡で, 桁行方向 N - 87° - W の東西棟である。規模は桁行 9.3 m, 梁行 8.7 m で, 面積は 80.91m² である。柱間寸法は, 桁行が西妻から 3.3 m (11 尺)・3.3 m・2.7 m (9 尺) で, 梁行は北平から 3.3 m (11 尺)・3.0 m (10 尺)・2.4 m (8 尺) である。

ピット 16 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 22 ~ 36cm, 短径 20 ~ 33cm である。深さは 15 ~ 61cm で, 断面形は U 字状である。第 1 ~ 3 層は柱の抜き取り後に堆積した層である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 白色粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量

所見 南平にあたる P 4 ~ P 7 は, 梁行の柱間寸法が狭く, 庇の柱穴の可能性があるが, 規模や形状に他のピットと明確な違いがないため, 総柱建物跡と判断した。時期は, 遺物が出土していないため, 不明である。



第 15 图 第 1 号掘立柱建物跡実測図

(2) 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑 (第16図)

位置 調査区西部のB 2e5区で、標高25mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 径3.0mほどの円形である。底面には複数の窪みがあり、粘土層まで掘り込まれている。深さは40～65cmである。

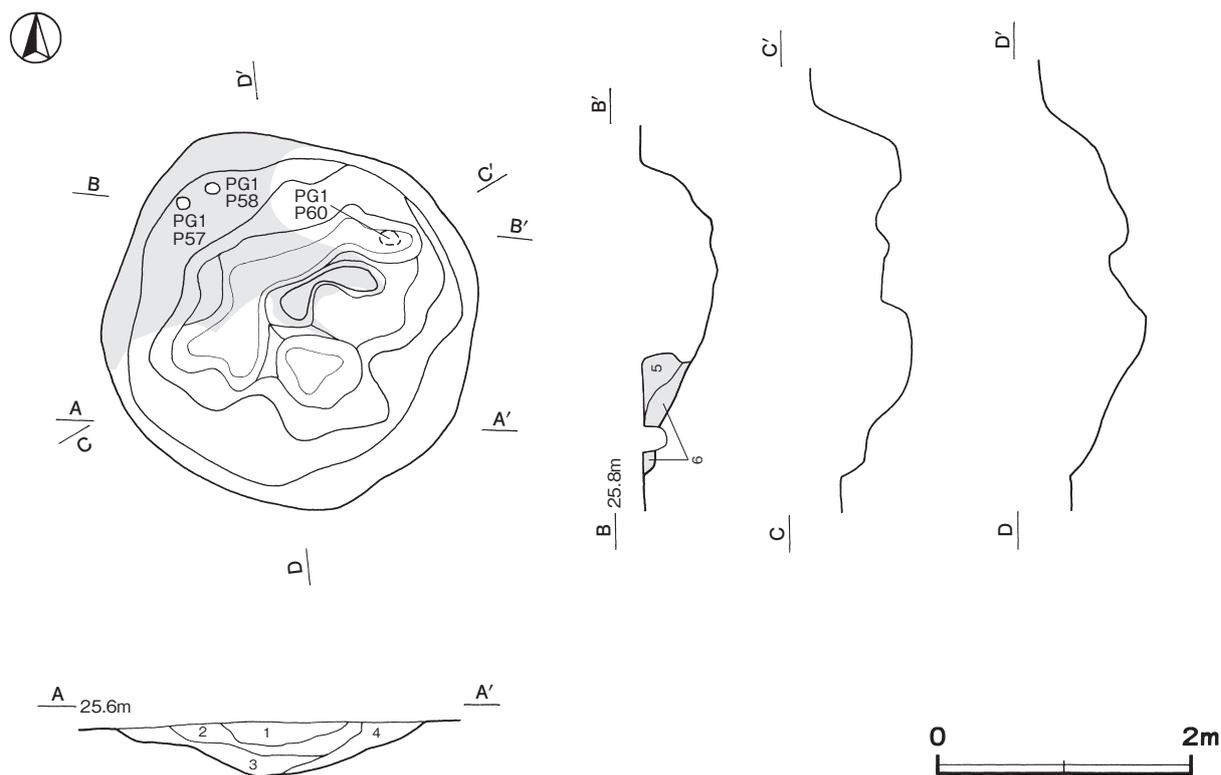
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれており、埋め戻されている。北西部の覆土には、粘土のブロックが多く含まれており、採掘時に粘土を採取した際の排土の可能性はある。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師器片1点が覆土中から出土している。

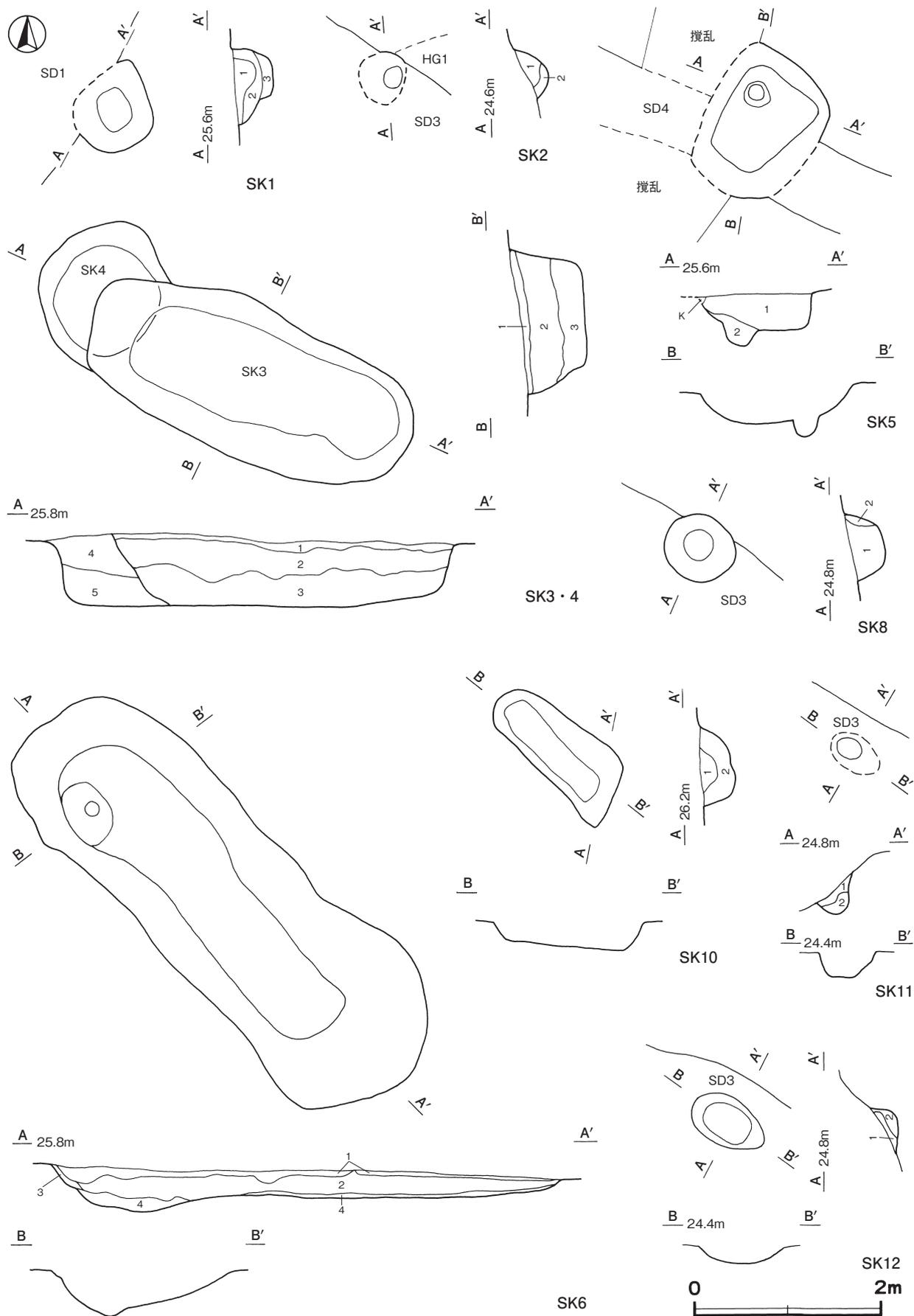
所見 規模が大きいことや底面の形状, また粘土層まで掘り込んでいることから, 粘土採掘坑と判断した。時期は, 伴う遺物が出土していないため, 不明である。



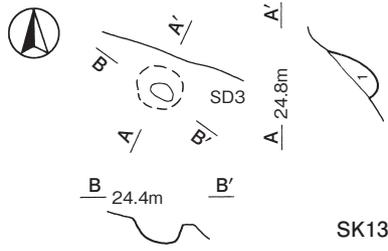
第16図 第1号粘土採掘坑実測図

(3) 土坑 (第17～19図)

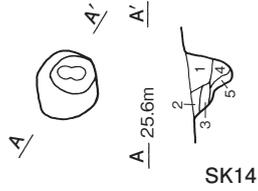
今回の調査で、時期不明の土坑28基を確認した。以下、実測図と土層解説及び遺物観察表と一覧表を掲載する。



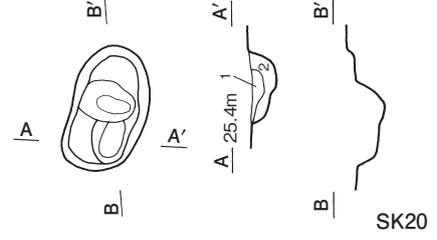
第 17 図 その他の土坑実測図 (1)



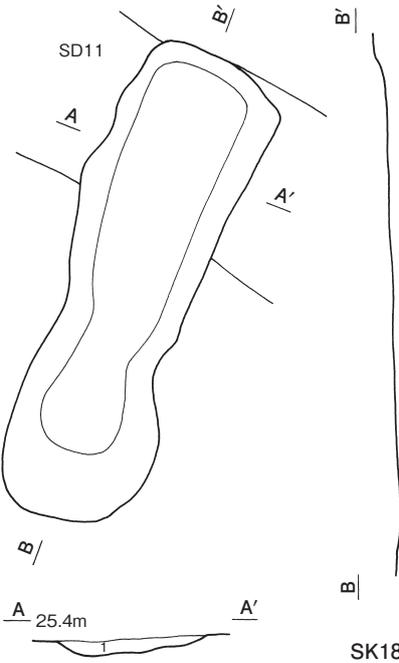
SK13



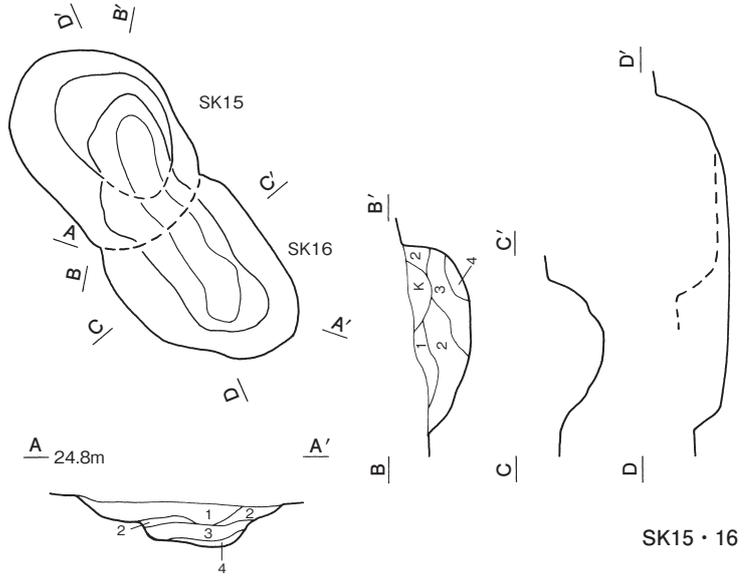
SK14



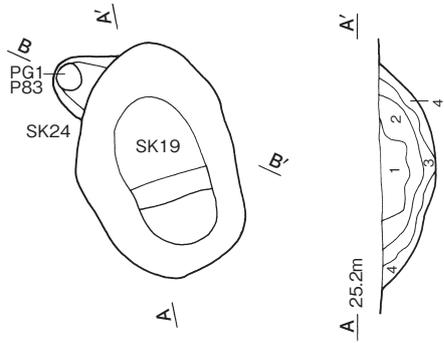
SK20



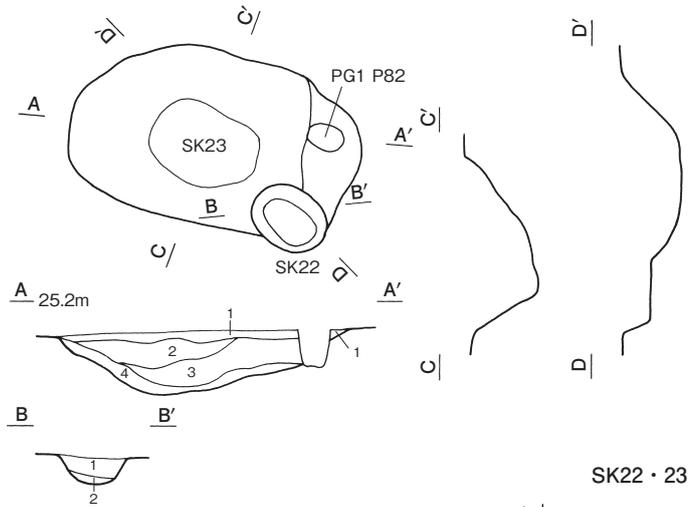
SK18



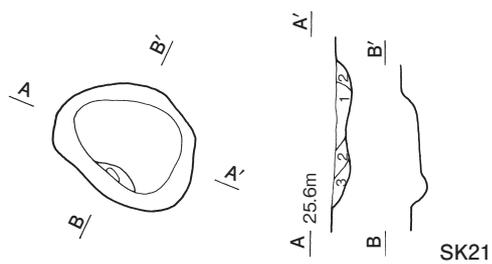
SK15・16



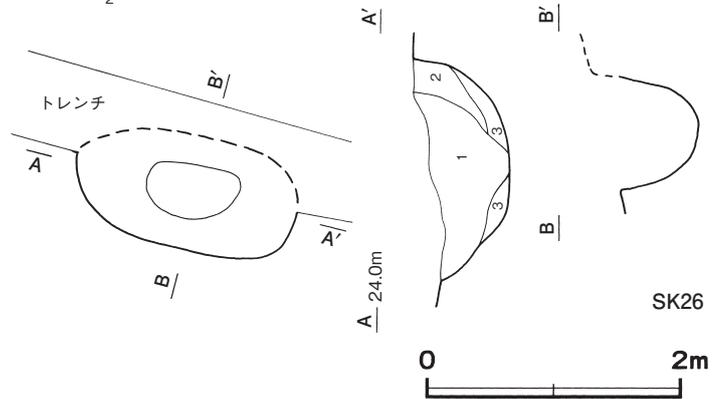
SK19・24



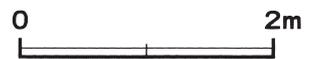
SK22・23



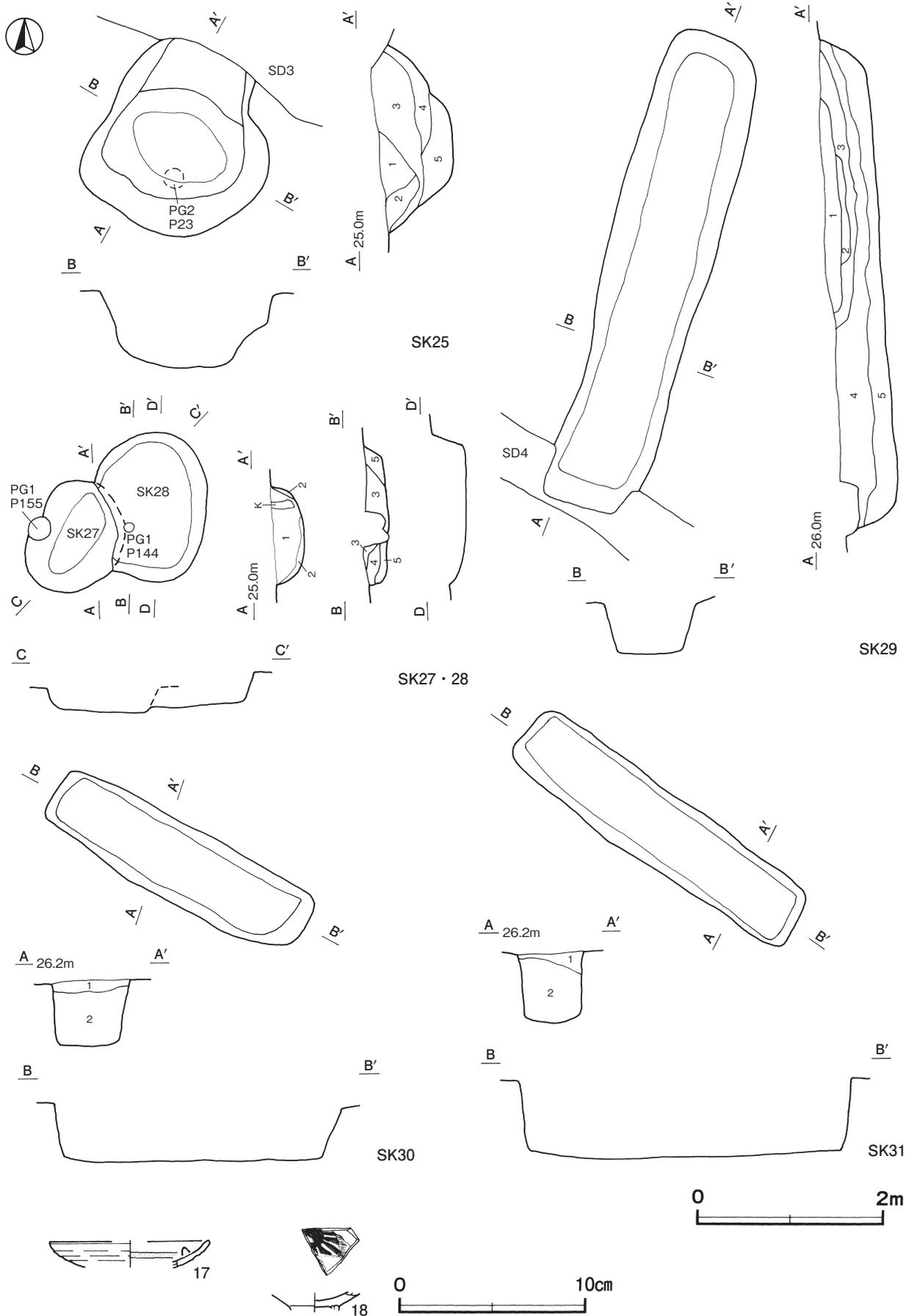
SK21



SK26



第18図 その他の土坑実測図(2)



第 19 図 その他の土坑・出土遺物実測図

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 炭化粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第3・4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第6号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第10号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第11号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第16号土坑土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量

第18号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第19号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

第21号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 灰黄褐色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐灰色 粘土粒子多量, ローム粒子微量

第26号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量

第27・28号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第29号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第30号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第31号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第31号土坑出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	陶器	灯明受皿	[8.4]	(14)	-	精良 鉄釉	灰黄褐	良好	外面露胎 内面施釉	覆土中	10%
18	磁器	盃	-	(10)	-	緻密 透明釉	灰	良好	兵隊盃 旭日旗	覆土中	5%

表4 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	B 3 j0	-	[不整形]	0.80 × (0.80)	42	平坦	緩斜	人為		SD 1 と新旧不明
2	C 4 c1	N - 24° - E	[楕円形]	(0.56 × 0.50)	(31)	皿状	外傾	人為		HG 1 → 本跡 SD 3 と新旧不明
3	C 4 g9	N - 67° - W	隅丸長方形	3.64 × 1.61	75	平坦	外傾	人為	縄文土器片, 土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 瓦片	SK 4 → 本跡
4	C 4 f9	N - 29° - E	[楕円形]	1.58 × (1.30)	75	平坦	外傾	人為		本跡 → SK 3
5	C 4 d6	N - 33° - E	[隅丸長方形]	[1.52 × 1.20]	36	平坦	外傾 緩斜	人為	土師質土器片, 陶器片, 磁器片	SD 4 と新旧不明
6	C 4 a2	N - 44° - W	隅丸長方形	5.43 × 1.66	35	平坦	緩斜	自然	縄文土器片, 土師器片, 土師質土 器片, 陶器片	
8	C 4 d3	-	円形	0.75 × 0.70	38	平坦	外傾	人為		SD 3 → 本跡
10	C 5 e3	N - 46° - W	不定形	1.58 × 0.64	32	平坦	外傾	自然	弥生土器片, 土師器片, 瓦質土器片	
11	C 4 d3	N - 54° - W	[楕円形]	(0.60 × 0.38)	(26)	平坦	外傾 緩斜	人為		SD 3 と新旧不明
12	C 4 d3	N - 56° - W	[楕円形]	(0.87 × 0.51)	(21)	皿状	緩斜	人為		本跡 → SD 3
13	C 4 d3	N - 48° - W	[楕円形]	(0.38 × 0.34)	(18)	皿状	外傾	人為		SD 3 と新旧不明
14	B 3 j6	N - 20° - E	楕円形	0.55 × 0.46	35	皿状	外傾	人為		
15	C 3 a3	N - 39° - W	[楕円形]	[1.64] × 1.24	49	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片	SK16 → 本跡
16	C 3 a3	N - 37° - W	[楕円形]	(2.34) × 1.19	40	平坦	緩斜	人為		本跡 → SK15
18	B 2 g7	N - 19° - E	隅丸長方形	3.89 × 1.18	10	平坦	緩斜	人為		SD11 → 本跡
19	B 2 f4	N - 20° - W	楕円形	1.82 × 1.25	46	皿状	緩斜	自然		SK24 → 本跡
20	B 2 e2	N - 17° - E	楕円形	0.99 × 0.61	20	凹凸	外傾	人為		
21	B 2 i0	N - 67° - W	楕円形	1.18 × 0.92	11	平坦	緩斜	自然		
22	B 2 f4	N - 53° - W	楕円形	0.58 × 0.45	21	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SK23 → 本跡
23	B 2 f4	N - 70° - W	楕円形	2.29 × 1.35	48	皿状	緩斜	自然	縄文土器片	本跡 → SK22, PG 1 (P82)
24	B 2 f3	N - 64° - W	[楕円形]	0.56 × (0.30)	12	平坦	外傾	不明		本跡 → SK19, PG 1 (P83)
25	C 3 a6	N - 16° - E	(不定形)	(2.04) × 1.85	81	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡 → SD 3, PG 2 (P23)
26	C 4 d2	N - 76° - W	[楕円形]	1.78 × [0.90]	75	皿状	外傾 緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片	HG 1 → 本跡
27	B 2 g2	N - 32° - E	楕円形	1.25 × 0.97	32	平坦	外傾	自然		SK28, HG 3 → 本跡 → PG 1 (P144・P155)
28	B 2 g3	N - 9° - E	楕円形	1.62 × 1.23	30	平坦	外傾	人為		HG 3 → 本跡 → SK27, PG 1 (P144)
29	C 4 d8	N - 17° - E	[長方形]	(5.26) × 1.07	53	平坦	外傾	人為	縄文土器片, 土師器片, 土師質土 器片, 陶器片, 埴輪片, 磨石	本跡 → SD 4
30	C 5 e1	N - 60° - W	長方形	3.06 × 0.83	55	平坦	外傾	人為	土師質土器片, 磁器片	
31	C 4 c8	N - 54° - W	長方形	3.56 × 0.77	82	平坦	外傾	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁 器片, 磨石, 瓦片	

(4) 溝跡（第4・20図）

今回の調査で、時期不明の溝跡10条を確認した。以下、断面図と土層解説及び一覧表を掲載し、平面図については遺構全体図で掲載する。

第2号溝跡土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第8号溝跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 4 黒色 白色粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第9号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第11号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第12号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第13号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量

第14号溝跡土層解説

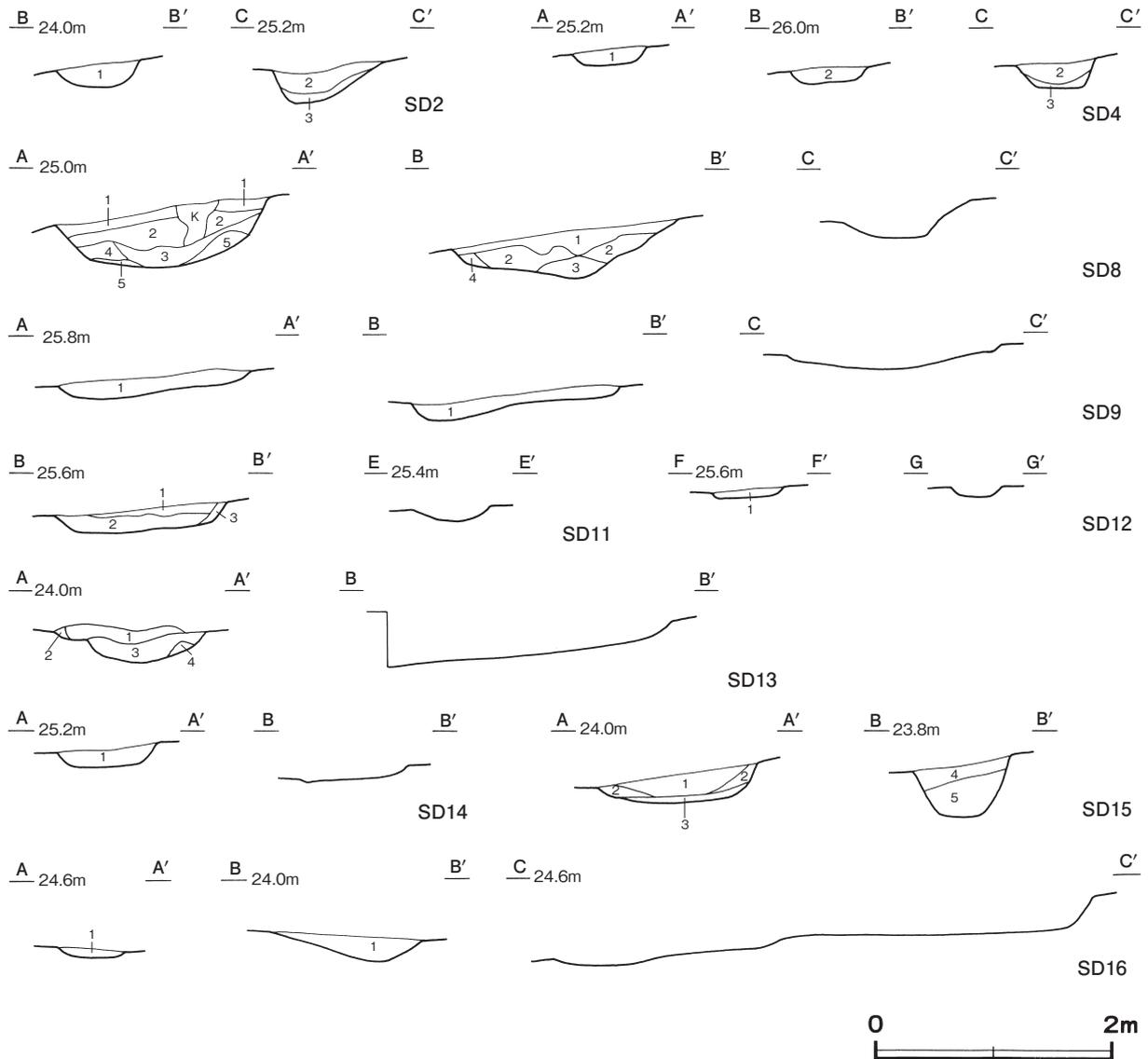
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

第15号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第16号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量



第20図 その他の溝跡実測図

表5 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
2	B 3j0 ~ C 3d8	N - 33° - E	直線	(15.4)	58 ~ 122	12 ~ 38	25 ~ 54	浅いU字状	緩斜	自然		SD 1・3・14→本跡
4	C 4b1 ~ C 5h3	N - 114° - E	直線	(53.4)	32 ~ 80	20 ~ 60	8 ~ 24	浅いU字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片	SK29→本跡 SK 5と新旧不明
8	C 3a3 ~ C 3b6	N - 109° - E	直線	15.2	70 ~ 200	25 ~ 50	40 ~ 50	浅いU字状	緩斜	自然	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片, 磁器片	HG 2→本跡 PG 2と新旧不明
9	B 3h4 ~ B 3j7	N - 125° - E	直線	15.1	70 ~ 200	54 ~ 153	8 ~ 16	浅いU字状	緩斜	自然	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片, 磁器片	PG 2と新旧不明
11	B 2f4 ~ B 2h7	N - 116° - E	直線	16.3	60 ~ 148	18 ~ 90	7 ~ 19	浅いU字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師質土器片	本跡→SK18
12	B 2d3 ~ B 2e4	N - 115° - E	直線	4.67	36 ~ 69	26 ~ 58	7	浅いU字状	緩斜	自然		
13	C 3b2 ~ C 3c2	N - 30° - E	直線	(2.43)	99 ~ 128	28 ~ 46	15 ~ 32	浅いU字状	緩斜	人為	陶器片, 磁器片	
14	C 3a8 ~ C 4b1	N - 112° - E	直線	10.6	60 ~ 89	46 ~ 78	6 ~ 14	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片, 土師質土器片, 瓦片	本跡→SD 1・2
15	C 3d9 ~ C 4e2	N - 114° - E	直線	[13.1]	57 ~ 135	20 ~ 80	25 ~ 46	U字状	外傾緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片, 須恵器片, 砥石	HG 1→本跡
16	C 3b7 ~ C 3d6	N - 16° - E	直線	4.68 (2.97)	50 ~ 94 104 ~ 126	20 ~ 35 20 ~ 50	11 ~ 28 28 ~ 35	浅いU字状	緩斜	人為		

(5) ピット群

第1号ピット群 (第21図)

位置 調査区西部の標高24~25mの緩斜面部, B 2d2~B 2j6区にかけての南北22m, 東西26mの範囲から, 柱穴状のピット142か所を確認した。

重複関係 第1号粘土採掘坑, 第23・24・27・28号土坑, 第3号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径12~43cm, 短径12~37cmの円形または楕円形で, 深さは2~70cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況 縄文土器片3点がP 82・P 130から出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。

第1号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 2h1	円形	23	23	20	21	B 2g2	円形	26	26	12	41	B 2e4	楕円形	26	20	18
2	B 2h1	円形	24	22	17	22	B 2g2	楕円形	22	20	31	42	B 2e4	円形	22	22	28
3	B 2h2	楕円形	23	20	17	23	B 2g3	円形	20	19	15	43	B 2e4	円形	18	18	13
4	B 2h2	円形	25	25	35	24	B 2f3	円形	23	21	7	44	B 2e4	楕円形	16	14	15
5	B 2h2	円形	22	21	38	25	B 2f3	円形	18	18	6	45	B 2e4	楕円形	37	25	25
6	B 2h1	楕円形	37	31	20	26	B 2g3	円形	18	18	16	46	B 2e4	楕円形	22	19	20
7	B 2h2	楕円形	32	25	26	27	B 2h3	楕円形	33	26	22	47	B 2e4	楕円形	17	12	20
8	B 2g1	楕円形	17	14	24	28	B 2h3	楕円形	22	20	8	48	B 2e4	楕円形	25	22	17
9	B 2g1	円形	28	26	30	29	B 2h3	楕円形	27	22	14	49	B 2e4	楕円形	21	18	9
10	B 2g1	円形	23	23	14	30	B 2h4	円形	23	23	8	50	B 2e5	楕円形	22	20	21
11	B 2g1	円形	19	18	16	31	B 2g4	円形	24	22	7	51	B 2e4	円形	18	18	6
12	B 2g1	楕円形	18	15	8	32	B 2f3	円形	32	30	7	52	B 2e5	円形	16	15	11
13	B 2f2	円形	23	22	15	33	B 2f4	円形	21	20	14	53	B 2e5	円形	26	25	6
14	B 2g2	楕円形	26	21	15	34	B 2f4	円形	17	16	14	54	B 2e5	円形	13	13	3
15	B 2g2	楕円形	23	20	7	35	B 2f4	楕円形	23	19	15	55	B 2e5	円形	20	20	7
16	B 2f2	円形	21	20	15	36	B 2g5	楕円形	34	30	70	56	B 2e5	円形	13	13	11
17	B 2f2	楕円形	30	26	8	37	B 2h5	楕円形	35	30	38	57	B 2e5	円形	19	18	4
18	B 2f2	円形	25	25	13	38	B 2h6	円形	18	17	22	58	B 2e5	円形	12	12	4
19	B 2g2	円形	22	21	23	39	B 2e3	円形	23	21	21	59	B 2e6	円形	16	16	14
20	B 2g2	円形	25	23	8	40	B 2e4	円形	18	18	19	60	B 2e6	円形	13	13	4



第 21 図 第 1 号ピット群実測図

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
61	B 2 g1	楕円形	16	14	10
62	B 2 e3	円形	21	20	23
63	B 2 i5	円形	25	23	15
64	B 2 i6	円形	26	24	32
65	B 2 h6	楕円形	27	24	55

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
66	B 2 h7	円形	19	19	25
67	B 2 h7	楕円形	20	18	35
68	B 2 h7	楕円形	14	12	11
69	B 2 f6	円形	26	24	17
70	B 2 i1	円形	21	20	12

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
71	B 2 d2	円形	20	20	19
72	B 2 d2	円形	28	28	22
73	B 2 g5	楕円形	21	19	3
74	B 2 g3	円形	31	29	30
75	B 2 g3	円形	31	30	24

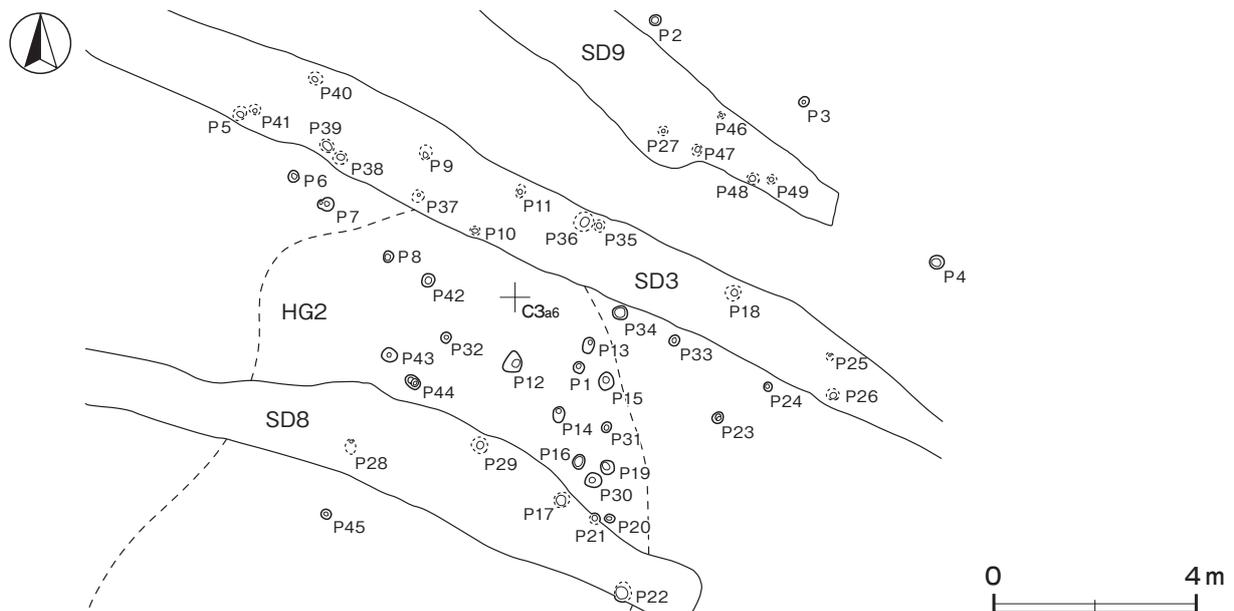
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
76	B 2 e4	楕円形	41	26	30
77	B 2 e2	楕円形	27	16	27
78	B 2 e2	円形	21	20	9
79	B 2 e5	円形	23	23	9
80	B 2 e5	楕円形	31	21	3
81	B 2 g2	円形	20	20	27
82	B 2 f4	楕円形	28	20	30
83	B 2 f3	円形	20	20	25
84	B 2 e3	楕円形	22	19	27
85	B 2 g2	円形	30	29	28
86	B 2 g2	円形	21	20	23
87	B 2 g2	円形	17	17	22
88	B 2 g3	楕円形	30	23	21
89	SB1 P10 に変更				
90	B 2 h2	楕円形	27	24	25
91	B 2 h4	楕円形	19	16	26
92	B 2 h4	楕円形	34	30	30
93	B 2 h4	円形	18	18	24
94	SB 1 P1 に変更				
95	B 2 g5	円形	17	17	10
96	B 2 h5	円形	18	18	20
97	B 2 h5	楕円形	30	27	64
98	SB1 P2 に変更				
99	B 2 h5	円形	21	21	33
100	B 2 j4	円形	17	17	25
101	B 2 i2	楕円形	26	20	26
102	B 2 i2	円形	37	37	13
103	B 2 h1	円形	37	34	8
104	B 2 g2	楕円形	30	14	2

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
105	B 2 h1	円形	17	17	10
106	B 2 h1	円形	21	20	7
107	B 2 h1	円形	20	19	9
108	B 2 h1	楕円形	31	28	4
109	B 2 h1	楕円形	20	17	6
110	B 2 h1	円形	21	20	6
111	SB1 P11 に変更				
112	B 2 g2	円形	16	16	8
113	B 2 g5	楕円形	27	23	5
114	SB1 P16 に変更				
115	B 2 h5	円形	18	17	22
116	SB1 P12 に変更				
117	SB1 P13 に変更				
118	SB1 P9 に変更				
119	SB1 P3 に変更				
120	SB1 P14 に変更				
121	SB1 P15 に変更				
122	B 2 i3	楕円形	40	28	8
123	SB1 P8 に変更				
124	B 2 i2	円形	27	27	31
125	B 2 i2	円形	22	21	28
126	B 2 h2	円形	30	28	8
127	B 2 h2	円形	22	22	6
128	B 2 h2	円形	22	22	6
129	B 2 h2	楕円形	21	14	9
130	B 2 h2	楕円形	21	17	7
131	B 2 h2	楕円形	22	20	16
132	B 2 h2	円形	26	25	21
133	B 2 h2	楕円形	43	34	19

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
134	B 2 h2	楕円形	27	19	8
135	B 2 h2	楕円形	25	21	15
136	B 2 h2	楕円形	29	23	11
137	B 2 h2	楕円形	30	23	12
138	B 2 h2	楕円形	30	27	21
139	B 2 h2	楕円形	25	20	5
140	B 2 h2	円形	16	16	10
141	欠番				
142	B 2 g2	楕円形	20	13	15
143	B 2 g2	楕円形	26	20	10
144	B 2 g2	楕円形	25	21	27
145	B 2 f3	楕円形	27	23	5
146	B 2 f3	円形	24	24	11
147	B 2 f3	円形	21	20	26
148	B 2 i2	円形	23	23	27
149	B 2 i2	楕円形	25	22	34
150	SB1 P7 に変更				
151	SB1 P6 に変更				
152	SB1 P4 に変更				
153	B 2 j5	楕円形	28	24	19
154	B 2 j6	円形	32	31	15
155	B 2 g2	円形	24	23	28
156	欠番				
157	SB1 P5 に変更				
158	B 2 g4	楕円形	22	20	16
159	B 2 g5	楕円形	22	20	38
160	B 2 i4	楕円形	22	20	60

第2号ピット群 (第22図)

位置 調査区中央部の標高24～25mの緩斜面部、B 3j4～C 3b6区にかけての南北12m、東西14mの範囲から、柱穴状のピット49か所を確認した。



第22図 第2号ピット群実測図

重複関係 第25号土坑，第2号遺物包含層を掘り込んでいる。第3・8・9号溝跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模 平面形は長径16～42cm，短径15～37cmの円形または楕円形で，深さは7～64cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

第2号ピット群計測表

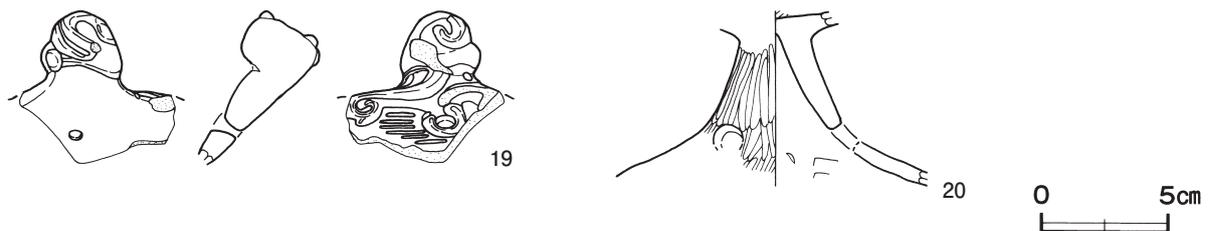
番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 3 a6	円形	21	21	21	18	B 3 j7	[円形]	(32)	(30)	(38)	35	B 3 j6	[楕円形]	(24)	(19)	(19)
2	B 3 i6	円形	23	22	12	19	C 3 a6	円形	30	30	11	36	B 3 j6	[楕円形]	(41)	(37)	(41)
3	B 3 j7	楕円形	21	18	31	20	C 3 b6	楕円形	20	18	18	37	B 3 j5	[楕円形]	(25)	(20)	(45)
4	B 3 j8	楕円形	29	26	33	21	C 3 b6	[円形]	(21)	(20)	(18)	38	B 3 j5	[楕円形]	(29)	(26)	(21)
5	B 3 j4	[楕円形]	(31)	(26)	(35)	22	C 3 b6	[楕円形]	(42)	(34)	(14)	39	B 3 j5	[楕円形]	(28)	(24)	(26)
6	B 3 j4	楕円形	25	22	18	23	C 3 a6	円形	23	22	13	40	B 3 i5	[楕円形]	(28)	(24)	(16)
7	B 3 j5	楕円形	33	27	17	24	C 3 a7	楕円形	19	16	12	41	B 3 j4	[楕円形]	(24)	(19)	(27)
8	B 3 j5	楕円形	21	19	8	25	C 3 a7	[楕円形]	(17)	(15)	(10)	42	B 3 j5	楕円形	26	23	44
9	B 3 j5	[楕円形]	(30)	(24)	(28)	26	C 3 a7	[円形]	(26)	(24)	(12)	43	C 3 a5	円形	30	28	39
10	B 3 j5	[楕円形]	(18)	(16)	(11)	27	B 3 j6	[円形]	(20)	(19)	(44)	44	C 3 a5	楕円形	33	24	26
11	B 3 j6	[楕円形]	(29)	(19)	(25)	28	C 3 a5	[楕円形]	(31)	(21)	(15)	45	C 3 b5	楕円形	21	18	43
12	C 3 a5	不整楕円形	42	33	64	29	C 3 a5	[円形]	(33)	(33)	(29)	46	B 3 j7	[円形]	(16)	(16)	(19)
13	C 3 a6	楕円形	31	21	32	30	C 3 a6	楕円形	32	29	21	47	B 3 j6	[楕円形]	(25)	(18)	(25)
14	C 3 a6	楕円形	32	22	28	31	C 3 a6	円形	20	19	36	48	B 3 j7	[楕円形]	(26)	(23)	(45)
15	C 3 a6	楕円形	37	30	35	32	C 3 a5	円形	20	19	36	49	B 3 j7	[楕円形]	(22)	(20)	(29)
16	C 3 a6	楕円形	30	23	16	33	C 3 a6	楕円形	22	18	35						
17	C 3 a6	[楕円形]	(34)	(28)	(15)	34	C 3 a6	円形	28	27	7						

表6 その他のピット群一覧表

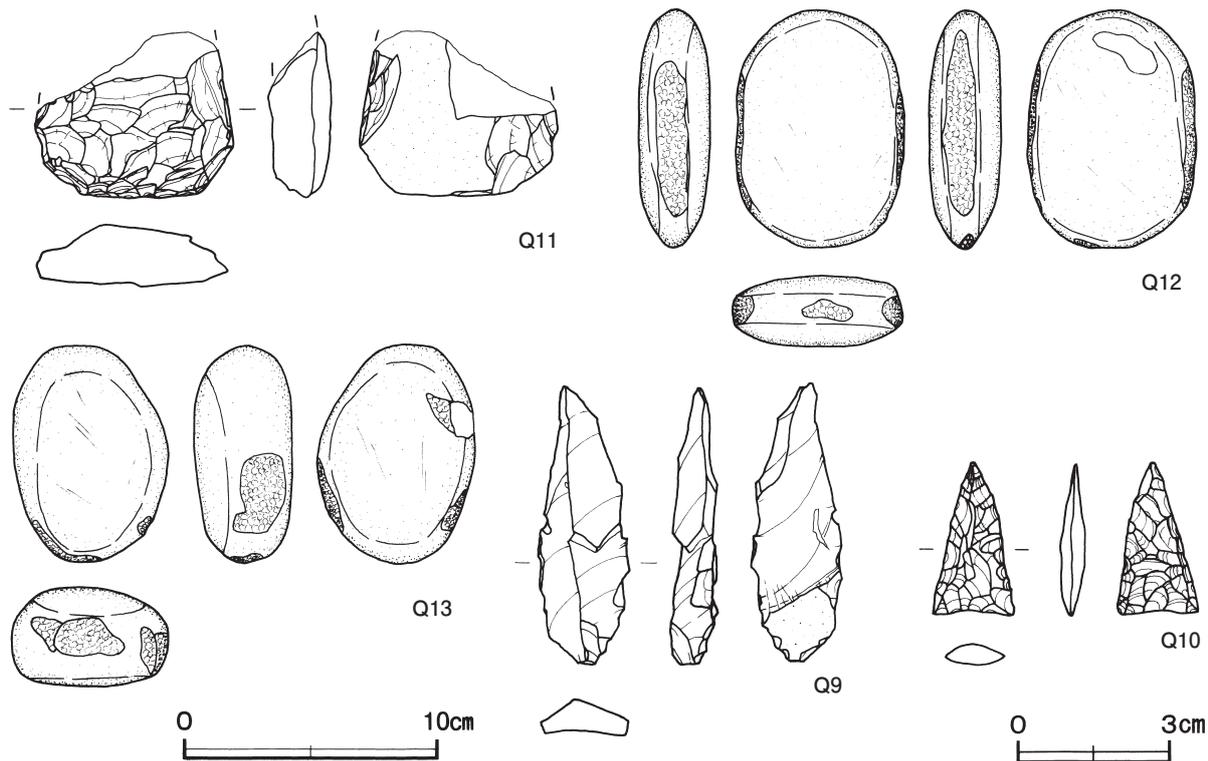
番号	位置	範囲	柱 穴					主な出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
			柱穴数	平面形	長径	短径	深さ		
1	B 2 d2～B 2 j6	南北 22 m，東西 26 m	142	円形・楕円形	12～43	12～37	2～70	縄文土器片	SN 1，SK23・24・27・28，HG 3→本跡
2	B 3 j4～C 3 b6	南北 12 m，東西 14 m	49	円形・楕円形	(16)～42	(15～37)	7～64		SK25，HG 2→本跡 SD 3・8・9と新旧不明

(6) 遺構外出土遺物 (第23・24図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第23図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 24 図 遺構外出土遺物実測図 (2)

遺構外出土遺物観察表 (第 23・24 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
19	縄文土器	浅鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	隆帯と沈線によって加飾された把手	SD 3	5% PL 3
20	土師器	器台	-	(6.9)	-	長石・石英	明赤褐	普通	受部・脚部外面へラ磨き 脚部円孔3か所	SK10	10% PL 4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	ナイフ形石器	5.5	1.8	1.0	6.8	珪質頁岩	基部調整 背面に礫面を残す	SD 3	PL 3
Q 10	鏃	3.0	1.6	0.5	1.7	ガラス質 黒色安山岩	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	確認面	PL 3
Q 11	打製石斧	(6.6)	7.8	2.5	(130.4)	ホルンフェルス	刃部両面調整 背面に礫面を残す	SD 3	
Q 12	磨石	9.5	6.7	2.8	(215.8)	安山岩	両面に使用痕 敲石兼用	SK29	PL 3
Q 13	磨石	8.7	6.2	3.9	(328.7)	安山岩	両面に使用痕 敲石兼用	SD 3	PL 3

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の遺物包含層3か所、平安時代の土坑1基、江戸時代の溝跡3条を確認した。ここでは各遺構の様相を概観し、若干の考察を加えることでまとめとしたい。なお、調査区北側の台地部は、当遺跡と上境作ノ内古墳群が一部重複しており、石棺を有する前方後円墳1基が調査されている¹⁾(第25図)。

2 遺物包含層について

東西90mの間に、軸線をほぼ同じくして、3か所確認した。ともに調査区南側に位置する支谷から北東方向に延びる垂支谷の谷津頭にあたり、下位から第1号遺物包含層、第2号遺物包含層、第3号遺物包含層の順で位置している。位置関係から出土している土器に若干の時期差が認められるものの、縄文時代前期のものが主体である。調査区北側の台地部には当該期の集落が存在し、谷部へ土砂とともに土器が流入したと想定される。前期の竪穴住居跡は、当遺跡と隣接する上野古屋敷遺跡でも19軒が確認されており、早期終末から前期初頭、前期前半の2時期に区分されている²⁾。当遺跡でも、包含層の出土遺物から、同時期または後続する時期の集落が台地部に存在するものと考えられる。

なお、谷部が完全に埋まるまでには時間幅があり、第3号遺物包含層の上層からは、鉄鏃2点が出土している。そのうち1点は鏃身部が雁又式のものである。雁又式の鏃は、中世以降の出土例は少ないが³⁾、同じ層位から土師質土器の小皿も出土しており、中世以降のものと考えられる。

3 平安時代の土坑について

緩斜面部に位置する1基を確認した。重複する江戸時代の溝に掘り込まれており、全容は不明であるが、径0.6mほどの楕円形の土坑である。形状に取り立てて特徴はないが、出土遺物は須恵器の坏2点が合わせ口の状態で出土している。2個体の坏は欠損している部位があるため、それぞれ口縁部は若干食い違っているが、底面からの出土であり、意図的に置かれた可能性がある。このような土器の埋納行為は、地鎮や胞衣の埋納が想定されている⁴⁾。当遺跡については、性格の限定は難しいが、出土位置から地鎮の可能性は低く、胞衣の埋納の可能性はある。

4 江戸時代の溝跡について

溝跡3条とも、あまり時期差はなく、いずれも18世紀後半以降と考えられる。特に第3号溝跡と第10号溝跡は、走行方向がほぼ同じで、ともに形状も類似することから、機能的な関連が想定される。さらに伴う遺物が出土していないため、時期不明とした第8・11・15号溝跡も、走行方向はほぼ同じで、形状も類似していることから、第3・10号溝跡とは同時期に存在した可能性がある。第3号溝跡と第8・10・11・15号溝跡は、約5mの幅で平行し、調査区の北西部から南東部に向かって延びている。これらの溝跡は、一見すると道路跡に伴う側溝を想定しやすいが、周囲に硬化面は確認できなかった。また、平行する溝跡の底面はレベル差があること、調査区が斜面地であること、明治期に作成された迅速測図にその痕跡が確認できなかったことから、道路跡に伴う側溝とは考えにくく、性格は不明である。

なお、第3号溝跡をはじめ、第1号遺物包含層などから複数の埴輪片が出土している。前述したように調査区北側の台地部には上境作ノ内古墳群が所在しており、前方後円墳1基が調査されている。古墳の周溝か

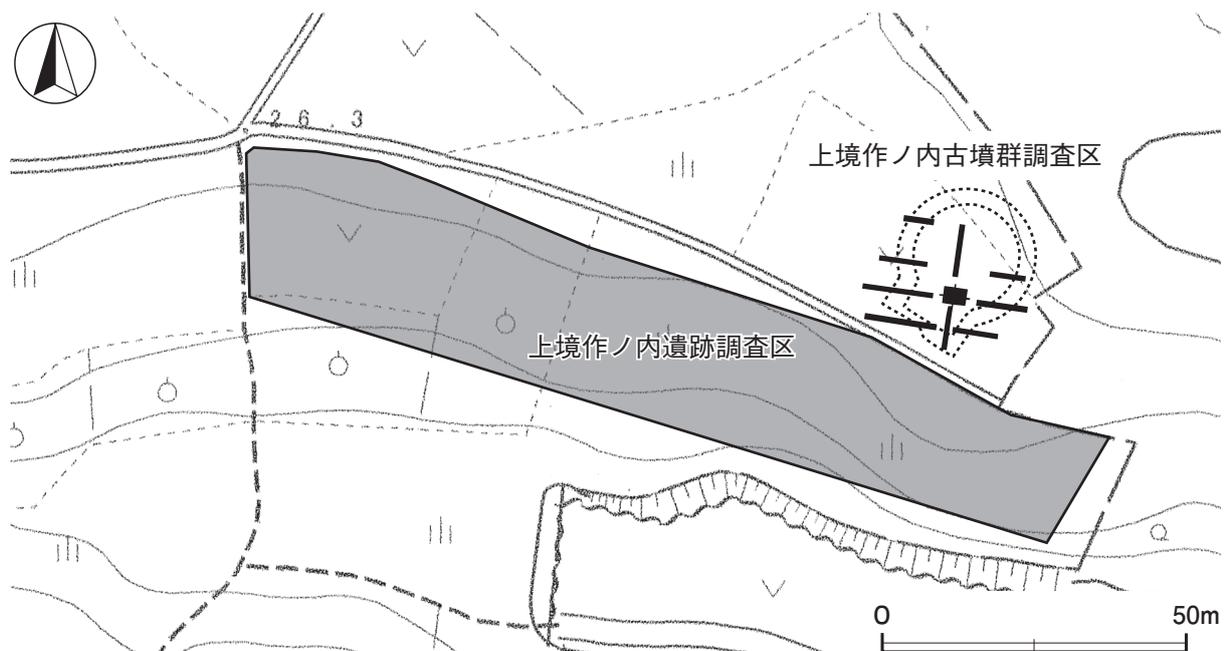
らは、6世紀後半に比定される埴輪片が出土しており⁵⁾、今回の調査で出土した埴輪片も、同古墳から流れ込んだものと考えられる。

5 小結

調査区は台地縁辺部で、遺跡の南端にあたり、集落の外周域と想定される。調査は限られた範囲ではあったが、台地部の様相をうかがい知る上で、いくつかの示唆的な情報を得ることができた。遺物包含層の土器からは縄文時代前期の集落の存在、胞衣の埋納の可能性がある平安時代の土坑など、断片的な情報ではあるが、当遺跡の集落の様相を解明する上で一助となれば幸いである。

註

- 1) つくば市教育委員会『つくば市内遺跡』つくば市 2001年3月
- 2) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕「上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IX」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月
b 川井正一「上野古屋敷遺跡2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書X」『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月
- 3) 樫村宣行「(仮称)水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書 白石遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第82集 1993年3月
雁又式の鉄鏃は、県内の出土例として8世紀から10世紀にかけての遺構に伴うことが多いが、水戸市の白石遺跡では15世紀後半に比定されている地下式坑の底面から1点出土している。
- 4) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所『図説 平城京辞典』2010年12月
法隆寺西院において確認された土坑から、合口にした土師器の坏2個体が出土し、内部には和同開珎2枚と金箔が納められていた。寺院の建立のための地鎮行為と考えられている。
- 5) 註1)に同じ

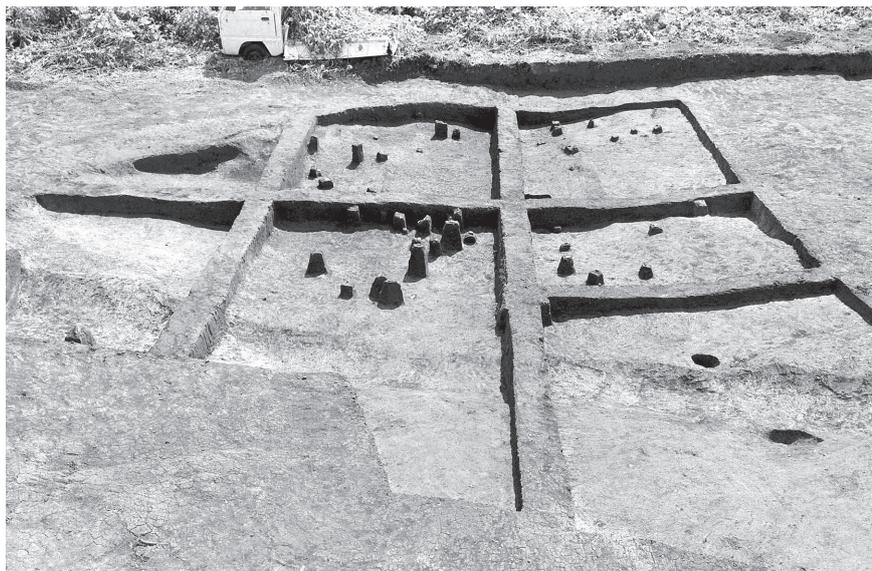


第25図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群調査区設定図（「註1文献」を参照に作図）

写 真 図 版



調査区全景（南西上空から）



第 1 号遺物包含層
遺物出土狀況



第 3 号遺物包含層
遺物出土狀況



第 3 号遺物包含層
完 掘 状 况

PL2



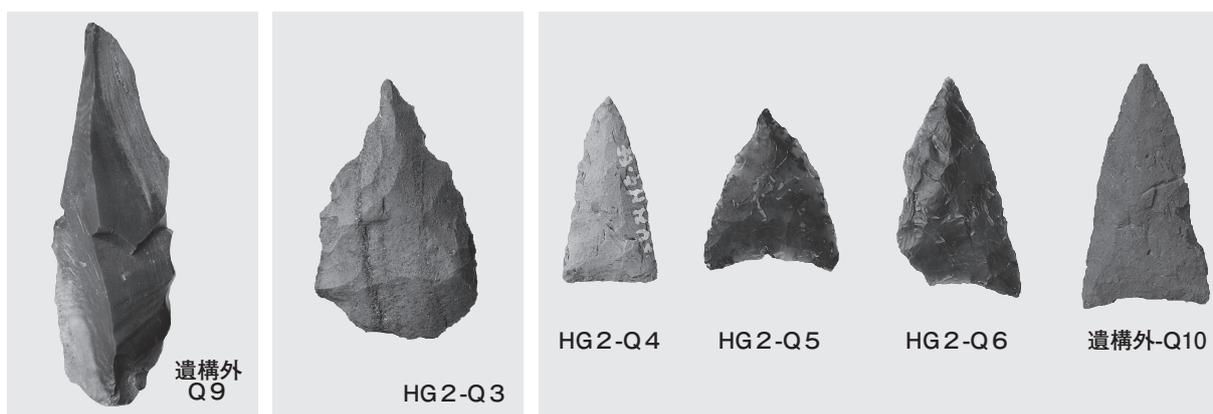
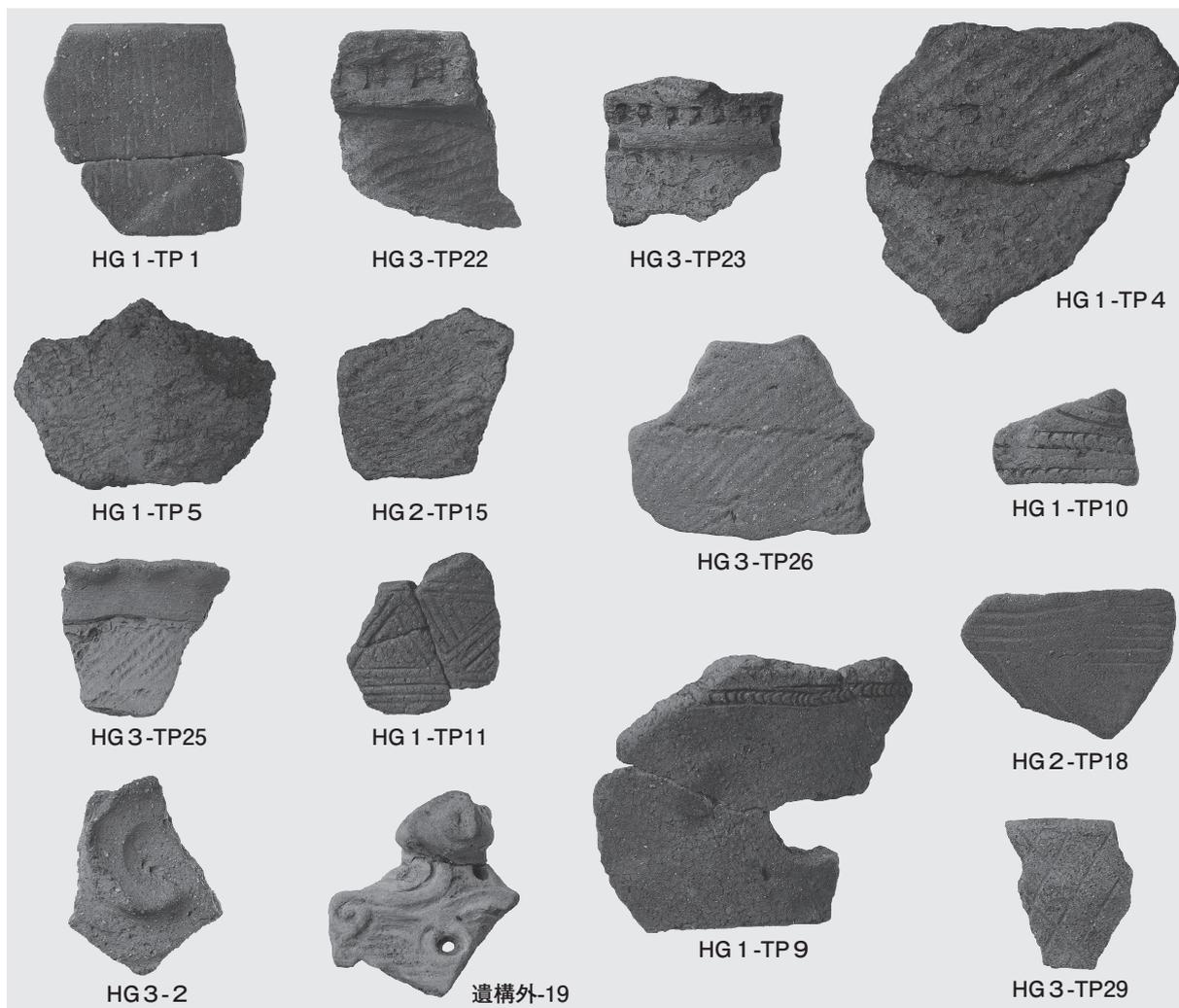
第 9 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 3 · 10 · 11 号 沟 迹
完 掘 状 况

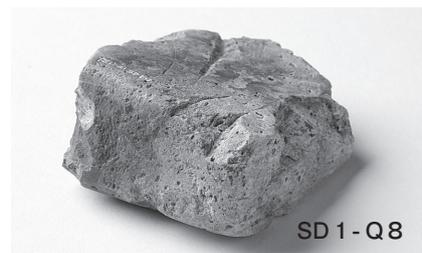
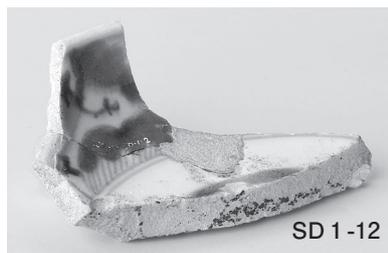
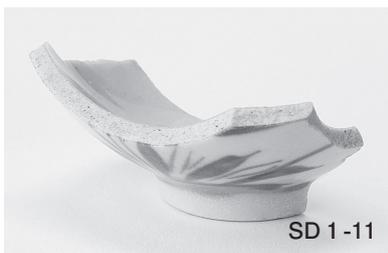
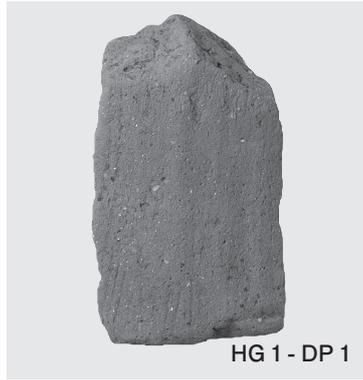


第 1 号 粘 土 採 掘 坑
完 掘 状 况



第1・2・3号遺物包含層・遺構外出土遺物

PL4



第 1・3号遺物包含層・第9号土坑・第1号溝跡・遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	かみざかいさくのうちいせき								
書 名	上境作ノ内遺跡								
副 書 名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 366 集								
著 者 名	小川貴行								
編 集 機 関	公益財団法人茨城県教育財団								
所 在 地	〒 310 - 0911 茨城県水戸市見和 1 丁目 356 番地の 2 TEL 029 - 225 - 6587								
発 行 日	2013 (平成 25) 年 3 月 15 日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査積 面積	調査原因	
上境作ノ内遺跡	茨城県つくば市上境字作ノ内 201 番地の 1 ほか	08220 1 512	36 度 6 分 49 秒	140 度 7 分 23 秒	23 ～ 26 m	20090901 ～ 20091231	3,563 m ²	中根・金田台 特定土地区画 整理事業に伴 う事前調査	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項		
上境作ノ内遺跡	集落跡	平 安	土坑		1 基	須恵器			
		江 戸	溝跡		3 条	土師質土器, 陶器, 磁器, 石器 (砥石)			
		時期不明	掘立柱建物跡 粘土採掘坑		1 棟 1 基				
	その他	縄 文	遺物包含層		3 か所	縄文土器, 弥生土器, 須恵器, 土師質土器, 土製品 (円筒 埴輪, 土器片錘), 石器 (鏃・ 石皿・敲石), 石製品 (双孔 円板), 鉄製品 (鏃)			
		時期不明	土坑 溝跡 ピット群		28 基 10 条 2 か所	縄文土器, 土師器, 陶器, 磁器, 石器 (ナイフ形石器・ 鏃・打製石斧・磨石)			
要 約	調査区は台地から谷に向かう斜面部で, 縄文時代前期に形成された遺物包含層のほか, 平安時代の土坑, 江戸時代の溝跡が確認できた。溝跡や遺物包含層から出土している土器は, 時期差があり, その多くが流れ込みと考えられる。これらの土器から, 台地上には複数期にわたる集落の存在が想定できる。								

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium ServicePack1
レイアウト Adobe InDesign CS5
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS5
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本
Adobe InDesign CS5
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線
・印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトしたものを入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第366集

上 境 作 ノ 内 遺 跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

平成25（2013）年 3月12日 印刷

平成25（2013）年 3月15日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
TEL 029-227-5505